

## 目 次

---

### 特別記事

- 東京 2020 オリンピック馬術競技レポート ..... 北野あづさ ..... 1  
東京 2020 オリンピック馬術競技  
—予想メモを脇にグリーンチャンネル観戦— ..... 池田 収 ..... 8

### 馬事往来

- プラトン哲学における馬 ..... 三浦 太一 ..... 14  
ドサンコから競走馬へ 新冠御料牧場の番号馬の末裔 ..... 田島 芳郎 ..... 20

### 書籍紹介

- Journal of Equine Science Vol. 32 No. 4, December 2021 和文要約 ..... 25

- お知らせ ..... 29

- 協賛団体名・賛助会員名簿 ..... 30

編集後記

---

Hippophile No. 87

### - 編集委員 -

|                |                      |
|----------------|----------------------|
| 編集担当常任理事・編集委員長 | 楠瀬 良 (日本装蹄協会)        |
| 編 集 委 員        | 阿部 憲二 (全国乗馬倶楽部振興協会)  |
|                | 戸崎 晃明 (競走馬理化学研究所)    |
|                | 荒川由紀子 (農林水産省)        |
|                | 永井富美子 (エディター)        |
|                | 有吉 正徳 (朝日新聞社)        |
|                | 沼田 恭子 (NPO 法人引退馬協会)  |
|                | 北野あづさ (日本馬術連盟)       |
|                | 古林 英一 (北海学園大学)       |
|                | 木村李花子 (東京農業大学)       |
|                | 三浦 暁子 (エッセイスト)       |
|                | 近藤 誠司 (北海道大学)        |
|                | 守谷 久 (ジャーナリスト)       |
|                | 近藤 高志 (JRA 競走馬総合研究所) |
|                | 山下 大輔 (日本馬事協会)       |
|                | 末崎 真澄 (馬の博物館)        |
|                | 山本 真広 (地方競馬全国協会)     |
|                | 関 正喜 (ジャーナリスト)       |

表紙絵：騎手 (The Jockey): アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック (1864-1901) 1899年 49.8×34.1 センチ多色刷り

リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。

---

日本ウマ科学会

Japanese Society of Equine Science

 特別記事

## 東京 2020 オリンピック 馬術競技レポート

北野あづさ



北野あづさ（きたの あづさ）

公益社団法人日本馬術連盟職員 広報担当。月刊機関誌『馬術情報』制作およびメディア対応が主な仕事。北京、ロンドン、リオデジャネイロオリンピック馬術競技を取材。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1年延期となった《第32回オリンピック競技大会（2020／東京）》が、2021年7月23日の開会式から8月8日の閉会式まで17日間にわたって無観客で開催された。実施されたのは33競技339種目。馬術は、障害馬術、馬場馬術、総合馬術の3種目で、それぞれ団体戦と個人戦が行われた。

### 大会の概要

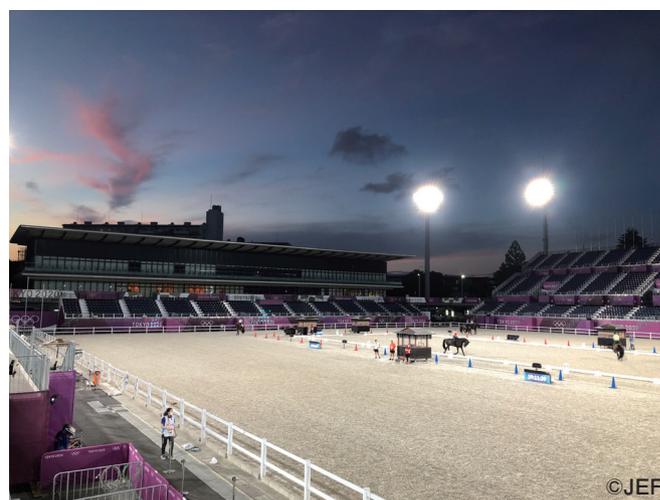
#### 【出場枠とチーム構成】

出場枠は団体枠と個人枠があり、通常はオリンピックの2年前に開催される世界選手権を皮切りに団体枠獲得競技会が行われる。その後、団体枠を獲得できなかった国に個人枠が配分される。まずは国として団体または個人枠を獲得し、次にその枠を使ってどの人馬を派遣するかは各国内の選考で決まるが、出場する人馬はFEI（国際馬術連盟）が定める出場最低基準をクリアしていなければならない。今回、日本は、開催国枠として3種目の団体枠が与えられたため、出場枠獲得競技会に出場する必要はなく、人馬の強化と選考に集中した。

前回大会では、団体戦は4人馬でチームを構成してそのうち上位3人馬の成績をカウントしていたが、今回は3人馬でチームを構成してすべての成績をカウントする方式となった。各国の人馬数を減らすことで、参加国数を増やすことが目的だったが、これは団体戦に参加する国にとっては大きな変更であった。その代わりに、団体参加する国にはリザーブ1人馬が認められており、リザーブ馬は大会会場に入厩してホースインスペクション（審判員と獣医師で構成するパネルによる競技参加適性チェック）も受ける。基本的に、団体戦に出場する選手は自動的に個人戦にも出場することになるのだが、障害馬術競技においては個人戦と団体戦に違う選手を出場させることもできた。

### 【会場】

メイン会場はJRA馬事公苑。2013年9月に東京開催が決まった時には、江東区にある夢の島陸上競技場・野球場がメイン会場だったが、準備期間を含め区の施設が2年以上使えなくなるという問題があって、馬事公苑への変更が決まった。1964年の東京オリンピックの馬場馬術競技会場でありオリンピック出場馬の厩舎であった馬事公苑が、再びオリンピックの会場となった。馬事公苑は2017年から全面改修工事を行い、新生馬事公苑として東京2020大会に提供された。アリーナやオフィス棟などは恒久施設だが、観客席やナイター照明などは東京2020大会のために仮設でつくられた。日本の夏の高温多湿な気候に慣れていない参加馬のために、厩舎には冷房が完備され、運動時間も日中を避けてタイムテーブルが組まれた。また、競技時間も日中を避け、主に夕方から夜にかけてナイター設備を使って競技が実施された。



馬事公苑会場全景（馬場馬術のファミリーライゼーション（馬場馴致）時に撮影）

総合馬術のクロスカントリー競技は、江東区の海の森に設置された海の森クロスカントリーコースで行われた。ここは埋立地であり、造成のために埋め立てゴミから出るメタンガスの放出管や樹木を撤去する作業からスタートし、2019年にはテストイベントも開催された。

## 各競技のレポート

### 【馬場馬術】

- 7月24日 団体／個人予選 第1日  
〔FEI グランプリ馬場馬術課目〕
- 7月25日 団体／個人予選 第2日  
〔FEI グランプリ馬場馬術課目〕
- 7月27日 団体決勝  
〔FEI グランプリスペシャル馬場馬術課目〕
- 7月28日 個人決勝  
〔FEI 自由演技グランプリ馬場馬術課目〕



北原広之&ウラカン

馬場馬術競技の出場枠は、団体15カ国（45人馬）と個人15人馬の合計60人馬である。そのうち個人枠の1人馬が出場を取り止めたため、団体と個人を兼ねた予選競技に出場したのは59人馬となった。予選競技はFEI グランプリ馬場馬術課目が使用され、2日間に分けて行われた。団体戦は15カ国中8カ国が、個人戦は59人馬中18人馬がそれぞれの決勝競技に進むことができる。予選競技は、世界ランキングに基づいてレベルの偏りがないように6グループに分けられた。個人戦決勝に進むことのできる18人馬は、各グループの上位2人馬と、その12人馬を除く全体の上位6人馬である。

グランプリ馬場馬術課目は規定演技と呼ばれるもので、運動の内容と順番がすべて決められており、出場選手は全員が同じ演技を行う。運動項目は33、さらに全体の印象を評価する項目が加わって、合計34項目を審判員が10点満点で採点する。重要視される項目は係数2（審判員がつけた点数が2倍される）がついており、満点は460点。得点を満点で除して、得点率と呼ばれるパーセンテージで表す。オリンピックの出場最低基準は一定の要件を満たした国際競技で66%以上を2回と決められているが、世界トップレベルの競技では80%を超える戦いが展開される。また、通常は5人の審判員が審査にあたるが、オリンピックや世界選手権など一部の大会では7人体制となる。

日本代表は北原広之（日本中央競馬会）とウラカン、佐渡一毅（日本中央競馬会）とルードウィッヒ、林伸伍（アイリッシュアラン乗馬学校）とスコラリ4でい



圧倒的な強さを見せたドイツ（団体優勝）

ずれもオリンピック初出場。また、リオデジャネイロオリンピックを経験した高橋正直（ユニテクノ株式会社）がルビコンユニテクノとのコンビでリザーブとなった。

佐渡&ルードウィッヒが1日目に出場した。佐渡は2014年からオランダを拠点に活動しており、オリンピックの代表選考にはルードウィッヒとバローロ JRA の2頭で臨んで、ともに好成績を収めて代表入りを決めた。ルードウィッヒは華やかな栗毛の牡馬で、会場入りしてからの日々のトレーニングでは切れのある動きを見せていた。しかし、本番では後肢の動きがつかまってしまったり、スムーズさを欠くことがあったりと小さなミスがあって全体的に点数が伸びず、62.531% (2,013.5点) で56位となった。

2日目には残る2人が出場。林&スコラリ4は、万全の準備で過去最高の状態でアリーナに入場したが、駈歩パートでいくつかミスがあり、最終得点率は65.714% (2,116.0点) で48位となった。

日本の三番手は北原&ウラカン。このグループにはランキングトップのドイツのイザベル・ベルトやロンドンとリオで個人金メダルを獲得したイギリスのシャーロット・デュジャルダンも入っていた。北原は、繊細なウラカンが本番でどのような動きをするか、何が起こるかかわからないと覚悟していたそうだが、細かいミスはあったものの大きく崩れることはなく、66.304% (2,135.0点) で45位となった。

日本の3人馬の得点合計は6264.5ポイント、15チーム中14位（1チームは1人馬が棄権したためチームとして失権）で決勝に進むことはできなかった。このポイントを得点率に換算すると64.850%である。トップのドイツは7,911.5ポイント（81.900%）、2位のイギリスは7,508.5ポイント（77.728%）、3位のデンマークは7,435.0ポイント（76.769%）。団体決勝へのボーダーラインとなる8位はスペインで6,749.5ポイント（69.871%）、今大会は70%が決勝進出の目安だった。

個人戦に関しては、ドイツのジェシカ・フォン・ブレドゥー・ウェンドルの84.379%が最高で、4人馬が80%を超え、決勝に進んだ18人馬は72%以上を獲得していた。

1日のオフをはさんで団体決勝が行われた。ここで使用されたグランプリスペシャルも、予選のグランプリ同様に規定演技課目である。つまり、全員が同じ演技

をするのだが、少し違う点がある。それは演技中に流れるBGMを選手が用意することだ。自由演技ではそれが当たり前で音楽も採点の対象となっているが、このグランプリスペシャルの音楽は採点の対象ではない。運動項目は36で、全体的な印象を評価する総合観察を加えて、37項目について採点される。予選に続きドイツが強さを見せて8,178.0ポイント（82.857%）を獲得して優勝。チームの3人馬すべてが80%を超えたのはドイツだけだった。2位は7,747.0ポイント（78.490%）のアメリカ、3位は7,723.0ポイント（78.247%）のイギリスとなった。ドイツは女性のみチームで、常に世界ランキング上位にランクされている人馬で構成されていた。

翌日は個人決勝である。ここでは自由演技グランプリが使用された。全員が同じ運動を行う規定演技とは違い、決められた運動（要素）でプログラムを組み立て、音楽をつけて行う。そのため、振り付け、図形の独創性、音楽の解釈など、芸術的な側面も採点の対象であり、また、成功すれば高得点がつく「難度」を取り入れることもできる。この決勝には18人馬が進出したが、個人参加（団体を組んでいない）の人馬はおらず、また、団体決勝に進まなかった国の人馬は1組のみだった。ハイレベルな戦いの結果、オリンピック初出場のドイツのジェシカ・フォン・ブレドゥー・ウェンドルが優勝。グランプリ、グランプリスペシャル、そして自由演技グランプリのすべてで1位という、大会を通して素晴らしい成績だった。2位もドイツのイザベル・ベルト。今大会で団体金、個人銀の2つのメダルを手にし、獲得したオリンピックのメダルが合計12個という記録を更新した。3位はイギリスのシャーロット・デュジャルダン。ロンドンとリオの金メダリストだが、今回は新しい馬とのコンビで出場していた。

### 【総合馬術】

7月30日 馬場馬術 第1日

7月31日 馬場馬術 第2日

8月1日 クロスカントリー

8月2日 障害馬術

総合馬術競技の出場枠は、団体15カ国（45人馬）と個人20人馬の合計65人馬である。そのうち個人枠の2人馬が出場を取り止めたため、出場したのは63

人馬となった。総合馬術は同じ人馬のコンビで馬場馬術・クロスカントリー・障害馬術の3種目を行うトライアスロンのような競技だ。3種目の総減点が少ない人馬が上位であり、団体は3人馬の合計減点で順位が決まる。個人戦についてはオリンピック独特のシステムで、障害馬術終了時点の上位25人馬による障害馬術競技が行われ、馬場+クロスカントリー+障害+障害の4競技の総減点によって決まることになる。

また、今大会から団体を3人馬で構成することになったことにより、新たなルールが導入された。総合馬術は特にクロスカントリーで失権（そこで競技を終了しなければならない）する可能性が高い。これまではいわゆる「失権点」という考え方があり、リオデジャネイロ大会では減点1,000だった。4人馬中3人馬の成績をカウントする従来の方式であれば、1人馬が失権した場合はその1,000点はカウントされず、残りの3人馬の成績でそれなりの順位がついていたのだ。しかし、今大会では3人馬中3人馬の成績をカウントする方式である。それをカバーするため（と筆者は考えている）に「失権からの復活」と「交代可能」の2つのルールがつくられた。「失権からの復活」は、人馬転倒や馬の虐待などの理由以外の失権は、一定の減点を負った上で競技を継続できるというもので、馬場馬術と障害馬術の失権は減点100、クロスカントリーの失権は減点200と定められた。「交代可能」ルールは、団体戦においてはチームメンバーが失権した場合に減点20を負って、リザーブ人馬に交代できるというものだ。同一人馬のコンビで3種目を完走するという総合馬術におい

て、失権しても競技を続行できる、あるいは途中で交代できるというのはかなりの奇策である。

日本は2018年の世界馬術選手権大会で団体4位となり、東京オリンピックでは団体メダルを目標にしていた。代表は大岩義明（株式会社 nittoh）とキャレ、田中利幸（乗馬クラブクレイン）とタルマダルー、戸本一真（日本中央競馬会）とヴィンシー JRA、リザーブは北島隆三（乗馬クラブクレイン）とフェローザニューモードで、この4人は世界選手権と同じ顔触れだった。

1つ目の種目である馬場馬術は、7月30日の午前と夜、31日の午前の3セッションに分けて行われた。国としての出番はドロウ（抽選）で決まるが、監督が考えるチーム内のオーダーは戸本、田中、大岩の順になった。一番手の役割はチームに勢いをつけること、そしてクロスカントリーでは走った感触や障害へのアプローチなどをチームメイトに伝えることだ。戸本&ヴィンシー JRA は馬場馬術で自身納得の演技を披露して減点25.90を出した。田中&タルマダルーは減点32.70、大岩&キャレは減点31.50。チームとしては減点90.10でこの時点で4位につけた。3人馬すべてが30を切る減点だった唯一のチーム、イギリスが減点78.30でトップに立った。

31日の午後に馬たちはクロスカントリー会場の海の森に輸送され、そこで一晩を過ごした。オリンピックのクロスカントリーコースは通常は6 km程度だが、暑さが心配されたため2019年のテストイベントとFEIと専門家による検討を経て4.5 km程度に短縮された。埋立地につくられた仮設コースは比較的平坦で、全長は



総合馬術個人4位 戸本一真&ヴィンシー JRAのクロスカントリー走行



胴上げされる戸本

4,420 mとなった。障害数は23だったがコンビネーション障害も多く飛越回数は最低 36, ロングルートを選択すればそれ以上の数を飛越することもある。競技は7時45分にスタートして3分間隔で走行した。出番が遅い選手は、気になる障害物を先の出番の選手がどのようにアプローチするか、どのくらいのスピードで走るかなどを確認できる点で有利である。その反面、出番が遅いと地面が荒れることがあり、また、今大会では気温が上がるのが不安材料だった。

日本の一番手を務める戸本の出番は5番。他の選手の走行を見ることなくスタートした。走りの感触から戸本は馬の調子が良いことを確信し、互いに助け合いながら4秒のタイムオーバーで走り切った。田中&タルマダルーも前半は好調だったが、徐々に馬に疲れが出て終盤のコンビネーション障害で1回の不従順があった。日本チーム最後は大岩&キャレ。気温が上がってくる中で、ウォーミングアップを短く障害を飛越する回数を少なくして馬の体力を温存したのだが、それが裏目に出た。スタート直前にボリュームのある固定障害に肢をひっかけて転倒してしまったのだ。立て直す時間がないままスタートしたが、馬が自信をなくして消極的になっていた。大岩が励ましながら走行していたが、バンケットの飛び下りからのナロー障害で横に逸れて落馬してしまった。ここで日本は減点 322.50 で11位となった。イギリスは3人馬ともクロスカンントリーを減点0で完走して首位をキープした。

最終日の朝に2回目のホースインスペクションが実施された。日本からはキャレを含む4頭がインスペクションを受けて合格したが、最終種目の障害馬術は大岩&キャレに代わって北島&フェローザニューモードが出場した。その北島&フェローザニューモードはクリアラウンドしてリザーブの役割をまっとうした。田中&タルマダルーは減点 12, 戸本&ヴィンシー JRA は減点 4。交代したことによる減点 20 を加え、日本は総減点 358.50 で最終順位は11位だった。トップを走り続けてきたイギリスは2人馬が1落下ずつしたが、総減点 86.30 で圧勝した。2位は減点 100.20 のオーストラリア、3位は減点 101.50 のフランスとなった。

初日から好調だった戸本&ヴィンシー JRA はこの時点で7位で、トップ 25 による個人戦に進んだ。会心の走行でクリアラウンドした戸本はタイムオーバーの 0.4 点が加わって最終減点 31.9 で4位、オリンピック総合



入賞選手に贈られるリボン

馬術競技の日本史上最高順位を記録した。個人優勝はドイツのユリア・クラウエスキーで初の女性チャンピオンとなった。2位はイギリスのトム・マックウエン、3位はオーストラリアのアンドリュー・ホイ。ホイは62歳、オリンピックデビューは1984年のロサンゼルス大会で、今回が8回目の出場だった。

#### 【障害馬術】

8月3日 個人予選

8月4日 個人決勝

8月6日 団体予選

8月7日 団体決勝

障害馬術競技の出場枠は、団体 20 ヶ国 (60 人馬) と個人 15 人馬の合計 75 人馬である。従来は団体兼個人戦の予選からスタートして団体決勝、さらにその上位人馬が個人戦に進むシステムだったが大きな変更があった。個人予選→個人決勝、団体予選→団体決勝と、個人戦と団体戦が完全に分かれて、個人戦が先に行われることになった。

日本からは、リオデジャネイロ大会ではリザーブ

だった齋藤功貴（北総乗馬クラブ）とチレンスキー JRA, 北京大会以来 13 年ぶりのオリンピックとなった佐藤英賢（Paul Schockemoehle Pferdehaltung GmbH）とサフィアデラック JRA, リオデジャネイロ大会に続き 2 回目の福島大輔（STAR HORSES）とチャニオン JRA, リザーブは川合正育（杉谷乗馬クラブ）とアズデメイとなった。

個人予選には 73 人馬が出場した。この上位 30 人馬が翌日の決勝に進むことができるのだが、想像以上に厳しい戦いだった。減点 0 が 25 人馬, 減点 1 が 4 人馬, 減点 2 が 1 人馬で, ここまでが上位 30 人馬。減点 1 と減点 2 は障害物の落下や不従順はなく, タイムオーバーのみの減点である。齋藤&チレンスキー JRA と福島&チャニオン JRA は減点 0, 佐藤&サフィアデラック JRA はタイムオーバーの減点 1 で, 日本は 3 人馬とも決勝進出を決めた。3 人馬とも決勝に進んだのは, イギリス, アイルランド, ベルギー, スウェーデン, 日本の 5 ヶ国だった。

個人決勝はコースの難度が一気に上がった。障害物の高さは最高で 165 cm, 幅（奥行）も大きくボリュームがあるだけでなく, テクニカルなつくりのコースだった。出番順は予選競技の成績のリバースオーダーで, 佐藤&サフィアデラック JRA が 4 番目に走行した。前半は順調だったが, 後半に 4 落下があり減点 16 で最終順位は 25 位だった。齋藤&チレンスキー JRA は中

盤でわずかに馬の肢が触れて 1 落下, さらにタイムオーバーもあって減点 5 で 13 位となった。福島はチャニオン JRA をうまくリードして, 難コースを減点 0 でゴールした。最終的に福島を含む 6 人馬が減点 0 で並び, ジャンプオフ（優勝決定戦）に進んだ。

ジャンプオフのコースは, 先の走行より障害物が減って全長が短い。その中で減点が少なく, タイムが早い人馬が上位となる。ジャンプオフの出番は, 先の走行のタイムの遅い順で, 福島が 1 番となった。一般的にジャンプオフの出番は遅いほうが有利だ。先に走行した人馬が減点があれば減点 0 狙いの安全策をとることができるし, 逆に先に走行した選手が減点 0 でもその走行を見て作戦を立てることができる。しかし 1 番は, 確実に減点 0 で帰ってくるのが必須で, しかも攻めていかなければならない。福島&チャニオン JRA はしっかりとすべての障害物を越えてノーミスでゴールした。しかし, さすがに世界一を決める大会である。全員が減点 0 で, 福島のタイムを超えてきた。福島&チャニオン JRA は個人戦 6 位。オリンピック障害馬術競技の個人戦入賞は, 1932 年のロサンゼルス大会で西竹一とウラヌスが優勝して以来の快挙であった。個人優勝はイギリスのベン・メイハー, 2 位はスウェーデンのペダー・フレデリクソン, 3 位はオランダのマイケル・ファン・デ・ブルーテンとなった。

1 日のオフをはさんで, いよいよ東京オリンピック



障害馬術個人 6 位 福島大輔 & チャニオン JRA



クリアラウンドしてガッツポーズする福島

馬術最終競技の障害馬術団体戦が始まった。出場枠は20だったが実際に参加したのは19カ国、そのうち3人馬の合計減点が少ない10カ国が決勝競技に進むことができる。日本の一番手は福島&チャニオン JRA で、前半は順調だったが終盤に2落下して減点8となった。二番手の齋藤にアクシデントが起きた。出番直前のウォーミングアップで、騎乗しているチレンスキー JRA の左後肢に出血が認められた。大きくぶつけたこともなく、明確な原因はわからなかった。止血を試みたが止まらなかったため、棄権を選択した。決勝進出の可能性がなくなったことから、馬への負担を避けるために佐藤&サフィアデラック JRA も棄権を決めた。3人馬中2人馬が完走できなかった場合のルールにより、日本はチーム失権となり団体戦は順位がつかなかった。

オリンピック前に団体決勝進出の目安として、チーム減点8以内なら確実、減点12は微妙なところと想定していたが、今大会のコースはかなり難しく、予選10位のチームは減点27だった。その団体戦はアメリカとスウェーデンが減点8で1位に並び、この2カ国によるジャンプオフが成立した。団体戦の場合はチームの3人馬すべてが出場して、その合計減点で勝敗を決するのだが、両チームの全人馬が減点0という素晴らしい走行を見せた。同減点の場合は3人馬のタイムを合計して早いほうが上位となる。アメリカが122.90秒で

優勝、スウェーデンは124.20秒で準優勝となった。3位はベルギーだった。

なお、オリンピックでは開催国の歴史、文化、建築、風景などをモチーフにした障害物を設置するルールがある。今大会においてもスペイン人コースデザイナーによる力士、だるま、こけし、甲冑、花札、新幹線、姫路城、日本橋、和食（寿司と日本酒）、かんざし、舞妓など、インパクト大の障害物が毎日登場して、メディアやネットで話題になった。

#### まとめ

課題や不安が多い中で開催された東京2020オリンピックだったが、無事に終了した。無観客開催については誰もが残念でならなかったと思うが、海外から参加した選手や役員、ボランティアからは「最高の施設で素晴らしい競技ができた」という声が聞こえてきた。また、日本代表選手も「この素晴らしい舞台に世界のトップ選手、トップホースが来てくれたこと、そしてそのパフォーマンスをテレビやネット配信を通じて日本の皆さんが観て、馬術を楽しんでくれたことが嬉しい」と話してくれた。

東京2020オリンピックで得たものを未来に活かし、日本の馬術の発展に資すること。それがこの大会に関わった我々の新たな課題である。

 特別記事

## 東京 2020 オリンピック馬術競技 —予想メモを脇にグリーンチャンネル 観戦—



池田 収 (いけだ おさむ)

1941年3月佐賀県生まれ。1967年東京農工大学大学院農学研究科(修士課程)を終了、同年4月農林省(現農林水産省)入省(農業経済職)。本省各局庁、経済企画庁、国土庁等で勤務し1997年4月統計情報部企画調整課長を退職。関係団体勤務を経て2007年同法人の解散に伴い清算して現在に至る。学部生時代馬術部に所属。

池田 収

## はじめに

新型コロナウイルスの世界的な大流行のため1年延期された東京2020は、感染不安で開催の賛否が分かれる中、多くの競技は無観客での開催となった。乗馬愛好家や青少年も直に観戦する機会を失った。BSグリーンチャンネルでの馬術競技無料放映とNHK特設サイトの録画等が唯一の観戦機会だった。

日本では、馬術競技の情報は日本馬術連盟(以下、馬連)HPと機関誌を除けばほとんど無く分かりにくい。国際馬術連盟(以下、FEI)HPやウィキペディア等ネットを通じて収集すれば、東京大会馬術競技の規則の内容、種目別ランキング、直近の競技成績、各国人馬のエントリー状況等の情報を知ることができた。

そこで筆者は、馬場馬術、総合馬術、障害馬術の3競技種目につき、参加国アスリートの人馬名、6月末の世界ランキング、今春以降の同クラス競技成績等を表に整理して自分なりに予想するとともに、参考のため馬関係の知人にも送信した。これは、競馬ファンが各種情報や専門家の見立てを参考に馬券を購入し、または単に勝馬を予想するのに似ている。

再び東京にやってきた五輪馬術競技を、事前に集めた情報も参考にして、時には半世紀前の情景を思い出しながら観戦した。

### 1. 日本代表選手の出場馬

前回1964年大会では、3競技の日本選手出場馬10頭のうち障害競技の2頭が外国産馬で8頭は内国産馬であったが、今回は全てが外国産馬であった。これをもっても日本の競技馬術が半世紀の間に大きく変わったことを象徴していた。馬名に続く( )書きは品種(血統台帳の略字)である。文末付表の五輪出場馬の品種欄を参考にしてもらいたい。

日本では、スポーツホース生産がほぼ皆無に近いため、馬連は中央競馬会(以下、JRA)の支援を得て多数の競技用馬を確保し候補選手に供給したのだが、途中から馬名にJRAを付記したため一目で識別できた。最終選考馬の多くがJRA支援馬であることをみても、母国開催を控えた関係者の意気込みが感じられた。

### 2. 馬場馬術競技

#### (1) 筆者の事前予想のポイント

団体戦と個人戦の予選課目は、グランプリ(GP)であり、2021年春の欧州各地の同競技成績等から各国の仕上りを把握し、これにFEI個人ランキング(馬が違えばその都度計上)を考慮し試算した。その結果は、ドイツの3人馬(FEIランキングで1位、2位、4位)が最も安定して高スコア(平均80以上)で最有力、次が英国(平均70台後半)、3位米国が僅差で続き、4位デンマーク、5位オランダ、6位スウェーデン、7位オーストリア、8位スペインと算出された。残念ながら日本チームの試算順位は低く、決勝進出(8位まで)のためには各選手がキャリアハイの成績を上げる必要があると見立てた。

馬場馬術競技は、障害系競技と異なり、競技中に事故は生じにくいこと、審査員による評価採点競技であることから、誤解を恐れずにいえば審査サイドに対象人馬の演技相場観ができてきているような感がある。

個人戦の見どころは、ドイツの3女性選手(最有力のイザベル・ベルト、ジェシカ・フォン・ブレドウ＝ヴェルンドル、ドロシー・シュナイダー)と英女のシャーロット・デュジャルダンの闘いがポイントとみた。さらに米国のエイドリアン・ライル、デンマーク女のカタリーヌ・ドフルがメダルに絡む展開か、と予想した。個人戦では18人馬が決勝進出できるが、ス

コアは出場選手の実績からみて70%を上回ると予想。日本の3選手の場合、やはりキャリアハイが求められたが、今春の成績ではその水準に達していなかった。

## (2) 団体兼個人戦の予選

グランプリ (GP) 競技は7月24、25日に実施された。日本選手の一選手 (24日) 佐渡一毅選手とルードウィヒ (OLDBG)、二選手 (25日) 林伸伍選手とスコラリ4 (HANN)、三選手 (25日) の北原広之選手とウラカン [JRA馬] (DWB) の3選手は、団体戦予選通過の一応の目安 (70%) に達せず、団体戦、個人戦共に決勝戦に進めなかった。

予選では予想どおりドイツ勢と、英、米、デンマーク、オランダ、スウェーデンとが熱戦を繰り広げた。団体戦の決勝進出8チームで予想が外れたのは、1選手が出場辞退したため失格となったオーストリアで、予想以上に健闘しポルトガルが7位で決勝に進んだ。

個人戦の予選では、ドイツ勢のイザベル・ベルトやイエシカ・フォン・ブレドウ＝ヴェルンドルらと、新馬に乗る英のシャーロット・デュジャルダン、デンマークのカタリーヌ・ドフルが上位を占めた。また、米国の1選手が辞退したため個人予選の上位19位 (スコア71.677%) までが決勝に進んだ。決勝進出18選手の国別内訳は、独、英、デンマークが各3選手、米、蘭、スウェーデンが各2選手、ポルトガル、スペイン、カナダが各1選手であった。

## (3) 団体戦の結果

団体戦決勝：グランプリ・スペシャル (GPS) 競技は7月27日。上位8チームが参加した。

ドイツチームは、最終演技者であるドイツの女性騎手ブレドウが最高得点をマークするなど予選での勢いを始終維持し団体2連覇を達成した。米の銀メダルは1948年ロンドン大会以来2度目だったが、馬場馬術競技でのメダル獲得のキャリアは英国より長く、団体では戦前の1932年ロス大会銅メダル、その後しばらく間隔はあるが、1976年大会以降2016年ロス大会を含め5回も銅メダルを獲得してきた。

英国チームは、2012年ロンドン大会で史上初めて馬場馬術競技でメダル (この大会では団体と個人ともに金)、2016年リオ大会では団体銀と個人金、そして今回は団体で銅メダル (後述するように個人も銅) を得

た。筆者としては、伝統的に強いドイツよりも、英国のように初めてメダル獲得してから3大会目となり、競技馬の交替を図る中で、最高水準のグランプリ馬を一定数調教確保できるのか注目していたが、馬術競技で連続3大会メダルを獲得し、その実力はオランダを凌ぐまでになった。日本の馬場馬術競技人口の少なさを考慮するとき、圧倒的に層の厚いドイツよりも、英国での人馬の自給システムが参考になるのではないかと思う。

団体戦の入賞順位は、4位デンマーク、5位オランダ、6位スウェーデン、7位スペイン、8位ポルトガルとなり、スコア差は比較的小さかった。馬場馬術競技を強化しようとする国は、優れた馬術家・調教師をトレーナーとして迎え入れようと努めている。例えば、ドイツの正統派馬術を継承するルドルフ・ツァイリンガーは、グランプリ馬を数十頭調教したことで知られ、長らくデンマーク馬場馬術チームのナショナルコーチを務めてきた。2018年世界馬術選手権終了後、乞われてスペインチームを教えている。デンマークやスペインの躍進をみればコーチ選びの大切さがわかる。

## (4) 個人戦の結果

7月28日、個人戦決勝のグランプリ・フリースタイル (GPF) 競技。

個人戦の優勝は独女イエシカ・フォン・ブレドウ＝ヴェルンドル (Dalera, TRAK) (スコア91.732%)。2位も独女イザベル・ベルト (Bella Rose2, WESTF) だった。ドイツは21年ぶりに個人金メダルを奪還。英女シャーロット・デュジャルダン (Gio, KWPN) は銅メダル。2012、2016大会で連覇した馬 (Valegro, KWPN) が引退した後、長らくランキング上位から遠ざかっていたが、複数の新馬を調教しており、それが実を結んだ。また、彼女の師匠カール・ヘスターも8位に入賞した。なお個人戦は6位までに5カ国の選手が入る接戦だった。

## 3. 総合馬術競技

### (1) 筆者の直前予想のポイント

FEIクラシック6大会の春夏の競技のうち英国のパドミントン・ホース・トライアル (5月初) はコロナ禍で中止されたので、米国のロレックス・ケンタッキー3日競技 (4月) とドイツのルーミュレン・ホー

ス・トライアル（6月）の2大会の結果を中心に、各国のCCI4 ☆以上の代表的な競技成績で五輪参加人馬のコンディションを調べ、かつFEIランキング（6月末）で各国選手の実績も参考にしつつ、団体戦15チームの5ランク評価を試みた。

Aランクは、英、NZ、独、米、豪の5カ国。この中で前3国が拮抗、メダル有力とみた。Bランクは、日本、スウェーデン、スイスの3カ国。日本チームは、2018年世界選手権大会の団体4位の実績と2選手がFEIランキング50位以内継続を評価。Bグループは全頭ゴールし上位入賞可能性は高いとみた。Cランクは、仏、アイルランド（IRL）、伊の3カ国。仏の2選手騎乗馬の今年の競技情報不足、IRLの場合は1選手の不安もみられたためだ。Dランクはブラジル、ポーランド、タイの3カ国でやはり不安定、Eランクは中国で、情報不足からだ。

また、個人戦では、英のオリバー・タウンエンド（ケンタッキー優勝、FEIランキング1位）、NZの夫婦、ジョネル・プライスとティム・プライスも有力なメダル候補とみた。さらに独のミヒヤエル・ユングの新馬の仕上がりからメダルの有力候補と予想。他に豪のアンドリュウ・ホイ（ルーミューレン3位）、米のフィリップ・ダットン（ケンタッキー8位）あたりがメダルに絡むのでは、とみていた。

## (2) 団体戦の結果

競技は団体戦と個人戦が併行して行われるもので、調教審査（7月30-31日、馬場馬術）、耐久審査（8月1日、CC=クロスカントリー）、余力審査（2日、障害飛越）の順に進行する。

まず団体戦であるが、英国は馬場馬術から首位に立ち、CC、障害飛越まで終始リードし優勝した。1972年ミュンヘン大会以来の優勝だった。2位の豪州は、馬場馬術では6位と出遅れたがCCでは2位に浮上し、障害飛越でも減点4で凌ぎ銀メダルを得た。ここまでは、Aランク予想国が入った。

次の3位、仏は馬場馬術で9位と出遅れたものの、豪州と同様その後追いついた。仏の2選手の騎乗馬の競技情報不足でランクを下げていたのだが、国内で仕上げてきていた。現場を見ないデータ分析の限界を感じた次第である。リザーブを含め4頭ともSF（セル・フランセ）であった。

また団体4位はドイツ、5位はNZ、6位は米国となりスコアの差も少なく、Aランクの予想に違わぬ活躍ぶりを示した。

Bランクの3カ国では、日本は1頭失権しリザーブ出場で11位、スイスは1頭途中棄権、リザーブ出場で10位、スウェーデンは2頭途中棄権、リザーブ出場で14位と大きく後退した。これに対し伊7位、IRL 8位、また中国も3頭完走させ9位と順位を上げた。

## (3) 個人戦の結果

個人戦の順位は、団体戦での個人成績上位25位までが、改めて障害飛越を行い、その結果を加算し決める方式。1位の独女ユリア・クライエフスキーとAmande de B'Neville（SF）はCCとその後の障害飛越でも始終安定した騎乗で減点26。6月のルーミューレンCCI4 ☆で5位（FEIランキング48位）であるが、独チームの他の2選手と実力伯仲の騎手である。2位の英トム・マクイーウェンとToledo de Kerser（SF）は減点29.3。6月の英Bictonで1位、団体優勝を果たした実力選手揃いの他の2選手を凌いだ。また3位豪のアンドリュウ・ホイとVassily de Lassos（AA）は減点29.6であり、ルーミューレン3位の好調を維持できたようだ。近年では珍しくアングロアラブに騎乗していた。〈戸本選手の4位は史上最高位〉

戸本一真選手とヴァインシー JRA（SF）は、馬場馬術の7位からCCもタイム減点のみで走破し、障害飛越の個人予選で障害1落（減点4）、決勝ではタイム減点0.4に抑え総減点31.9の僅差で堂々4位に入賞。日本五輪総合競技史上、戦前戦後を通じて最高位の成績だった。他の日本選手をみると、田中利幸選手とタルマダルー（SF）は、馬場馬術での減点32.7（29位）からCCを経て35位、障害競技を終了した段階で34位であった。また、期待の大岩義明選手とキャレ44（HOLST）は、馬場馬術で減点31.5（21位）となり、CCでは湖中の屋形船（8cd）に乗り上げ動けず、なんとか通過したものの、その後バンケット障害を飛び降り、次のナロー（幅の狭い）障害で右に逃避した際に態勢を崩して落馬し失権した。ここで日本の団体戦上位入賞の可能性はなくなった。最終日の障害飛越では、リザーブの北島隆三選手とフェーローザニューモード（KWPN）を出場させ、無過失（減点0）で通過し、先述の団体順位となった。

また、5位、英のオリバー・タウンエンドと Ballaghmor Class (ISH) は今春の実績、ランキングからみて本命とみられたが、障害競技2回で各障害1落となりメダルを逃した。なお、6位、仏のニコラ・トゥザンと Absolut Gold (SF) については、騎手は6月のランキング26位であるが、馬は2019年ルーミュールン10位が目立った成績位で国際競技歴が乏しく、今回の東京で脚光を浴びることとなった。

#### 4. 障害馬術競技

##### (1) 筆者の事前予想のポイント

まず団体戦出場20カ国60人馬の今春夏の競技成績とロンジンランキング等から出場予定選手の仕上がり状況を調べたところ、コロナ禍の下、本年の欧米競技会(5☆/160)では突出した成績の人馬はほとんどみられず、個人戦は混戦が予想された。

そこで、団体戦の20チームを総合競技の場合と同様5ランク評価を試みた。Aランク(メダル可能)は、英、仏、ベルギー、独、スイス、米で、これにスウェーデン(A/B)を含めた7カ国を中心に、B/Cランクの蘭、アイルランド、Cランク(決勝進出可能)の豪、日、ブラジル、イスラエル、メキシコ等が競うのかなと予想した。

さらに、個人戦については、6月末のロンジン個人ランキング(以下、R○位と表示)と出場馬の今春夏の競技成績(CSI5☆)を組み合わせてみると、英、仏、ベルギー、独の選手を米、スイス、スウェーデンの選手が追う展開か、とみた。英ではスコット・ブラッシュ(R4位、7月蘭1位)、ベン・マー(R12位、7月独1位)、仏のニコラ・デルモット(R43位、7月仏1位)とペネロップ・ルプレボ(R46位、同4位)、ベルギーではジェローム・ゲリー(R19位、6月ベルギー1位)、グレゴリ・ワチュレ(R44位、5月伊1位)、独はアンドレ・ティーム(R140位、6月ポーランド1位)、スイスのステーブ・ゲルダ(R3位、5月仏1位)、米のケント・ファリントン(R5位、6月仏1位)あたりが有力かな、と予想した。

なお日本の3選手のロンジンランキングは3桁で根拠にできないが、7月2日のオランダでの同クラス競技からみて上位入賞は予想できなかった。

##### (2) 個人戦の結果

①個人戦予選：8月3日、73人馬が出場。まず日本選手の走行だが、一番手の福島大輔選手はチャニオンJRA(OS)に騎乗して減点0、二番手の齋藤功貴選手はチレンスキーJRA(OS)に騎乗して減点0、三番手の佐藤英賢選手はサフィアデラックJRA(SF)で障害は無過失、タイム減点1の26位で通過した。3選手揃っての予選突破は過去にもないことで驚いた。国別には、ベルギー、英国、スウェーデン、日本が3選手通過したのに対し、米国は全滅、独仏は2選手が予選落ち。30位の予選通過ラインが減点2までだった。結果論になるが、団体戦で活躍した実力のある多くの選手が1落の差で予選落ちしたことからすると、予選コースが平易すぎたのではないか、との印象を受けた。

②個人戦決勝：8月4日、障害の高さ165cmとやや難しいコースであった。

走行順番は予選成績の逆順で実施。4番目に佐藤英賢選手とサフィアデラックJRAが走行、3落下とタイム超過で減点16(25位)。7番目走行の齋藤功貴選手とチレンスキーJRAは一落下とタイム超過で減点5(13位)。13番目走行の福島大輔選手とチャニオンJRAは障害減点0、規程タイム内で走行無過失だった。

30人馬の走行で6人馬(スウェーデン3と英蘭日の各1)が無過失となりジャンプ・オフに移行。戦後日本選手がここまで勝ち残った例はない。アナウンサーと解説者の話が、1932年ロス大会金メダリスト西中尉(とウラヌス)に及んだのも、強い期待の表れだった。〈福島選手、戦後初の6位入賞〉

ジャンプ・オフでの走行順は、走行タイムの逆順で、福島選手とチャニオンJRAが最初にスタート。慎重に1つひとつ飛越し障害減点0、規程タイム内でゴールした。全員が無過失通過した中、4番目走行の英国ベン・マー選手とExplosion W(KWPN)は大胆にショートカットして障害に向かい飛越して最短時間で走行し優勝。2位はスウェーデンのペーデル・フレドリクソン選手とAll In(SBS)、3位はオランダのマイケル・ファンデルフレーテン選手とBeauville Z(ZANG)、4位と5位(女)にスウェーデン騎手が続いた。

福島大輔選手とチャニオンJRAの6位入賞は戦後初の快挙である。齋藤功貴選手の13位も2004年アテネ大会での杉谷泰造選手15位を上回った。さらに、日本の3選手揃っての予選通過は初めてであり、団体戦へ

の期待を高めた。

筆者の予想を踏まえていえば、障碍競技、特に個人戦の予想は難しい、というのが率直な感想だった。

### (3) 団体戦の結果

①団体戦予選：8月6日。予選では、19カ国（豪は開幕前棄権）のうち日本を含め3国がチーム編成できず棄権した。日本チーム一番手の福島大輔選手がチャニオン JRA に騎乗して出場し減点8で完走したが、続く2人馬が棄権したためチームは失権した。個人戦での日本選手の活躍から、皆、団体戦での健闘を期待していたと思う。原因は何か。7日、団体決勝日のグリーンチャンネルの解説者は、二番手出場予定の競技馬（齋藤選手のチレンスキー JRA）に直前に出血が見つかり棄権したため、団体要件が満たせないとして、三番手の佐藤選手の出場も見合わせた旨解説していた。今大会から団体戦出場は3人馬で、不調や事故に備えてリザーブ（1人馬）制が採用された。日本の障碍競技のリザーブとして川合正育選手とアズデメイ（SF）が決定（7月5日公表）されていた。リザーブは競技会場にて待機状態でなければ機能しないわけだから、どのような事情から応急対応できなかったのか、知りたいところである。なお、団体予選の1位はスウェーデン、2位はベルギーとドイツ、4位はスイス。5位の米国は個人戦とは1人馬替えていた。10位までが決勝へ進む。

②団体戦決勝：7日。障碍の高さ165cmで、少々難しいコースであった。二巡目が終了した段階では、仏が首位となり、米、ベルギー、スウェーデンの3国が共に僅差の2位で並んだ。三巡目は、二巡目までの成績の逆順に走行。2番走行予定の英はスコアからみて上位入賞は無理と判断してか棄権。スイス、ブラジルの走行後、独の第三走は6番トリプル障碍 a を落下し b を拒止したところで団体戦の上位入賞を諦めてか途中棄権。次のオランダ、ベルギーに続く米とスウェーデンは、共に減点4が加わり総減点8で仏の最終走行を

待つ。仏の第三走は3番ダブル障碍 a で落下 b を拒止した後、再行では a を拒止し失権。

〈スウェーデンチーム、ジャンプ・オフで米を下す〉

米とスウェーデンが同点となり、金銀の争いはジャンプ・オフまで持ち込まれた。3位はベルギー、以下オランダ、スイス、ブラジルの順。オランダとブラジルは予選と決勝で1人馬を入れ替えていた。

ジャンプ・オフは新たなコースで米の先行で始まる。両チームは、共に譲らず減点0。スウェーデンは合計タイムが1.3秒少なく辛勝、その競技馬は3頭全てベルギー温血種（BWP と SBS）。2位の米国は、個人戦では全員予選落ちしたが団体戦で雪辱した。

### 5. 結びに代えて一更なる高みへの期待

半世紀ぶりに巡ってきた日本でのオリンピック開催は、候補選手はじめ馬事関係者の周到的準備により多くの収穫を得たが、未達の課題もみられた。

総合馬術競技個人4位（戸本一真選手と騎乗馬ヴィンシー JRA）と障碍馬術競技個人6位（福島大輔選手とチャニオン JRA）入賞は、戦後日本馬術界の願望が夢でなく実現可能なことを知らしめた。ここに至るまでの日本チームの選手や関係者、関係組織の努力に大いなる敬意を表したい。

その上で指摘したいことは、日本チームの出場馬の全てが外国産馬であったことである。世界の馬術界は、この半世紀に世界屈指の競馬産業を築き上げた日本の大いなる謎と感じているのではあるまいか。

今大会に出場した全競技馬の品種（血統台帳）をみると、今やサラブレッドはほとんど使用されず、欧米強豪国以外でも馬術競技参加国の多くでスポーツホースの改良増殖に努めていることが見て取れる。日本は、これまで得意の育種と飼養管理技術を活かして乳用牛、肉用牛、競走馬を柱とする大家畜畜産産業を発展させてきたが、4本目の柱として乗用馬を位置づけ、新たな馬事産業を育成してはどうだろうか。

付表 東京 2020 馬術競技使用馬の競技種目別品種（血統登録台帳）

| 区分     | 品種（血統台帳）    |                      | 障害馬術   | 総合馬術 | 馬場馬術 |
|--------|-------------|----------------------|--------|------|------|
| ドイツ中間種 | HANN        | ハノーバー                | 2      | 4    | 10   |
|        | HOLST       | ホルスタイン               | 9      | 6    | 1    |
|        | WESTF       | ウエストファーリアン           | 3      | 3    | 4    |
|        | OLDBG       | オルデンプルグ              | 2      | 1    | 6    |
|        | OS          | 国際オルデンプルグ            | 4      | 0    | 0    |
|        | BAVAR       | ババリアン                | 1      | 0    | 0    |
|        | DSP (BRAND) | ブランデンプルグ             | 1      | 3    | 0    |
|        | TRAK        | トラケーネン               | 0      | 3    | 1    |
|        | RHEIN       | ライニッシュ温血種            | 0      | 0    | 1    |
|        | 小計          |                      | 22     | 20   | 23   |
| その他温血種 | SF          | セル・フランセ              | 9      | 14   | 0    |
|        | AES         | アングロ・ヨーロッパ           | 1      | 0    | 0    |
|        | SHBGB       | 英スポーツホース             | 0      | 3    | 0    |
|        | BHHS        | 英ハノーバー               | 0      | 1    | 0    |
|        | ISH         | アイルランドスポーツホース        | 2      | 9    | 0    |
|        | BE/SIES     | アイリッシュ・ヨーロッパ SH エリート | 0      | 0    | 1    |
|        | NZWB        | NZ 温血種               | 0      | 1    | 0    |
|        | KWPN        | オランダ温血種              | 12     | 8    | 20   |
|        | NRPS        | オランダポニー              | 0      | 1    | 0    |
|        | BWP         | ベルギー温血種              | 11     | 2    | 3    |
|        | SBS         | ベルギー温血種              | 3      | 1    | 0    |
|        | ZANG        | ベルギー温血種              | 6      | 2    | 0    |
|        | SWB         | スウェーデン温血種            | 0      | 1    | 0    |
|        | DWB         | デンマーク温血種             | 0      | 1    | 4    |
|        | LUSIT       | ルシタニアン               | 0      | 0    | 5    |
|        | FWB         | フィンランド温血種            | 0      | 1    | 0    |
|        | NWB         | ノルウェー温血種             | 0      | 0    | 1    |
|        | CH          | スイス温血種               | 0      | 1    | 0    |
|        | MIPAAF      | イタリア                 | 1      | 0    | 0    |
|        | SCSL        | ルクセンブルグ              | 1      | 0    | 0    |
|        | CZWB        | チェコスロバキア             | 1      | 0    | 0    |
|        | PZHK (SP)   | ポーランド                | 1      | 3    | 0    |
|        | ESH         | エストニアスポーツホース         | 2      | 0    | 1    |
|        | CDE         | スペインスポーツホース          | 0      | 1    | 0    |
|        | BH (ABCCH)  | ブラジルスポーツホース          | 0      | 1    | 0    |
|        | 小計          |                      | 50     | 51   | 35   |
|        | 軽種          | TB                   | サラブレッド | 0    | 0    |
| AA     |             | アングロアラブ              | 0      | 4    | 0    |
| 小計     |             |                      | 0      | 4    | 0    |
|        | 不詳          |                      | 1      | 2    | 1    |
|        | 計           |                      | 73     | 77   | 59   |

資料：FEI-Tokyo 2020 Olympics Games により筆者作成。

編集部注：特別記事二編で人名の日本語表記が異なる場合があります。

## プラトン哲学における馬

三浦太一



撮影：三浦亜由美

三浦太一（みうら たいち）

中部大学人文学部講師。上智大学哲学科卒業，ならびに，同大学院博士前期課程修了。ロンドン大学キングスカレッジ哲学科博士課程を修了し，Doctor of Philosophy in Philosophy 取得。専攻は古代ギリシア哲学，特にプラトンの哲学。論文に「狂気の伝達—プラトン『イオン』篇における詩人と吟誦詩人，そして聴衆—」，『アリーナ』第二十二号，中部大学編，277-290 頁（2019 年）等がある。

### はじめに

古代ギリシアの哲学者プラトン（紀元前 427 年～347 年）は、「対話篇」と呼ばれる哲学的戯曲作品を私たちにのこした。それらの作品では，ほとんどの場合，彼の師であるソクラテスを主人公として<sup>1)</sup>，登場人物との間で様々な哲学的な議論が展開される。ソクラテスたちは，時には激しく，時には友好的に対話を交わし，議論のテーマは倫理学，認識論，形而上学，宇宙論，宗教論，恋愛論，人間論など多岐にわたる。複数の対話篇を見渡してみると，人間たちが知恵を振り絞り抽象的な事柄を追求するにあたって，実は人間以外の色々な「生き物」の描写が鮮やかになされていることが目にとまる。近年，プラトン作品の中での「動物」に注目した論文集が出版されたのも，当然のことかもしれない<sup>2)</sup>。プラトンにとって非常に重要なテーマの一つであった「魂」を考察する際には，様々な生物の特性が，人間や魂の在り方を示すために用いられている。

プラトンが使っている生き物を，目についたものから並べてみよう。鷹，鳶，驢馬，蟻，蜂，白鳥，（これらは『パイドン』という対話篇に登場する），ライオン，羊，狼，犬（『国家』篇に登場）。そして，本稿のテーマとなる「馬」（ギリシア語で ἵππος/hippos）は複数の作品で登場する。先ほど言及した論文集の編者の一人であるジェレミー・ベルという研究者によれば，プラトン対話篇の中の少なくとも 20 作品において馬が用いられている。これはかなりの頻度だと言ってよい<sup>3)</sup>。

さらに，馬は，プラトン作品の中でただ多用される生き物というだけではなく，議論の中で大変重要な位置を示す場合がある。たとえば，神と人間の魂の形が，二頭立ての馬車に喩えられている（『パイドロス』篇）。また，ベルが重要視するように，プラトンの祖国であり，その知恵で高名であったアテナイ（現代語で

はアテネ）は，大きくて生まれの良い，しかし，鈍いところがある馬として表されている<sup>4)</sup>（『ソクラテスの弁明』）。魂は，プラトン哲学全体において，人の本質となるべきものである。そして，ベルが指摘しているように，馬に喩えられるアテナイもしくはアテナイの人々は，ソクラテスが哲学的吟味を行い，より善きものにしてしようとしている対象であった<sup>5)</sup>。本稿は，プラトン哲学における馬というイメージの重要性と，馬と人との密接な類似性を示したベルの考察に学びながら，対話篇『パイドロス』と『ソクラテスの弁明』を読解する。そして，この読解を通じて，作品内での馬の特徴を明らかにし，それがプラトン自身の哲学的議論と関わる仕方を示していく。

### 第一節 魂と二頭立ての馬車

最初に『パイドロス』篇での，魂の描写を見ていく。プラトンの作品は，哲学書としてだけではなく，その卓抜した表現技法から，文学作品としても高い評価を獲得しうるものだが，その中でも，『パイドロス』篇は傑作のひとつと言ってよいだろう。作品前半部は，恋が人間にとって善きものか否かという主題を巡り，複数の演説が示される。そして，ソクラテスの第二演説と呼ばれる箇所は，魂が天上を駆け巡り，哲学者の探究対象でもある「実在」（プラトンの「イデア」とも呼ばれる）へと羽ばたく様を，一つの巨大な絵画作品のように，壮大な神話的描写によって書き表している。本稿で注目するのは，魂の性質を描くにあたって，馭者が操縦する二頭立ての馬車の構造が比喩的に用いられているということだ。ソクラテスは次のように魂を説明する。

「そこで，魂の似すがたを，翼を持った一組の馬と，そ

の手綱をとる翼を持った馭者とが、一体になってはたらく力であるというふうに、思いうかべよう。」(『パイドロス』246a6-7)<sup>6)</sup>

ここでは、魂の働きは、馭者と一組の馬からなる馬車の仕組みで示されているが、古代ギリシア人ならずとも、馭者が操縦する二頭立ての馬車は私たちにもイメージしやすい(写真参照)。そして、この形は人間の魂だけではなく、神の魂にもあてはまるという驚くべきことが示唆されている。ただし、両者の間では違いがあり、それはそれぞれの構成要素の質の差異に帰されている。すなわち、神々の魂においては、馭者と二頭の馬は、「それ自身の性質も、またその血すじからいっても」、善いものとなっている(246a7-8)。ところが、神以外の魂、とくにわれわれ人間の場合には、一方に関しては、「資質も血すじも、美しく善い馬である」(“τῶν ἵππων ὁ μὲν αὐτῷ καλός τε καὶ ἀγαθός καὶ ἐκ

τοιούτων”)が、他方の馬は、資質と血すじに関して、「これと反対の性格である」と言われている(246b1-3)。つまり、残念ながら、人間の魂には欠点のある悪い馬が構成要素として入っている。またここでプラトンは、馬そのものの性質と血すじ(ギリシア語からより直訳的に訳した場合には、脇條訳のように「由来」となる<sup>7)</sup>)を分けて考えている。つまり、現代の私たちが競走馬を評価する場合のように、その馬自身の能力と血統とがあわせて考慮されている。

この馬車は、私たちが通常目にする大地を走るものとは違い、馭者と二頭の馬が翼をもち天空を飛翔する。魂は、最高神ゼウスの行進に従い天を巡り、天球の外にまで上昇した時には、諸々の真の实在と呼ばれるものを見る(247c-d)。それはつまり、「正義」や「節制」、「知識」や「美」そのものといった存在である。プラトンの世界観に従えば、こういった種類の存在は、言葉によって示される単なる抽象概念であるというだけで



英国ロンドン市内を進む二頭立ての馬車(撮影:三浦亜由美)

はない。むしろ、この世にある諸々のものは、これらの真の存在の故に、その性質をもつことになる。たとえば、私たちがこの世界で目にして、美しいと呼ぶ事物は、「美」の实在を分け持つことによって美しくある。馬車の天上の道行に際して、人間の魂のうち、もっともよく神に従うものは、辛うじてこれらの实在を見る。しかし、他の魂は、馭者の腕が悪く、また、そもそも善い馬だけではなく、劣った質と生まれの馬がいるため操縦が困難であることから、翼を失い地上に落ちることになってしまうのだ(248a-b)。

以上の馬車の比喩により、人間の魂には役割と優劣の差を含んだ三つの部分があることが示唆されている。すなわち、操縦係の馭者と、それによく従うものである善い馬と、天上の道行を困難にしてしまうような悪い馬、という三部分である。この比喩における構造は、プラトン他作品『国家』篇の「魂三部分説」に対応していると言われる場合がある<sup>8)</sup>。その説において、人間の魂は、理性的部分、気概的部分、欲望的部分に分かれる(『国家』434c-441c)。知を求める理性的部分が魂の舵取りをし、それに対して、名誉や勝利を求める気概的部分が補助的に働き、欲望的部分による身体的欲求が、理性的部分によって制御されるとき、人間の魂はよく働くことになる。この対応関係を採用するならば、善い馬と悪い馬は、それぞれ、人間の気概的部分と欲望的部分に対応する。

これらの魂三部分の説を鑑みると、プラトンが人の魂の中に馬を見い出すにあたって、馬と人間との具体的な関わりについての考えが利用されていることも見えてくる。プラトンは人間の魂において、理性の働きによく従うものと、そうではないものの二つがあることを見い出す<sup>9)</sup>。同様に、馬という生き物は、人間の指示に従い、その大きな力を人に与える反面、その統御に従わない場合、人間に大きな危険を与えることもある。馬は人間にとって善き従者にもなりうるが、この比喩に従えば、墜落の原因の一つにもなる。利点と危険の両方が、人の魂内部の中に具わっていることを、二頭立ての馬車の比喩は示している。

## 第二節 魂の調教

さて、私たちは魂と馬の両方に見い出される性質を確認した。二頭立ての馬車が危険に陥る理由の一つは、劣った性質を有する悪い馬、ということになる。では、

私たちはこの悪い馬を改善すること、すなわち、調教することはできないのだろうか。プラトンは『パイドロス』において、二頭立ての馬車の比喩をただ導入するだけではなく、馬の有様と馭者の命令の仕方をより詳細に描写している。そこでは、自らの魂とそれが有する恋の欲望を扱うための、一種の調教方法が示されていると思われる。

まず、性質に優劣の差がある二頭の馬は、対比法を用いながら、以下のように描写されている。

「そこで、この二頭の馬のうち、よいほうの位置(右)にある馬をみると、その姿は端正、四肢の作りも美しく、うなじ高く、威厳ある鉤鼻、毛なみは白く、目は黒く、節度と慎みをあわせ持った名誉の愛好者、まことの名声を友とし、鞭うたずとも、言葉で命じるだけで馭者に従う。

これに対して、もう一方の馬はとみれば、その形はゆがみ、贅肉に重くるしく、<sup>からだ</sup>軀の組み立てはでたらめで、太いうなじ、短い頸、平たい鼻、色はどすぐろく、目は灰色に濁って血ばしり、放縦と高慢の徒、耳が毛におおわれて感がにぶく、鞭をふるい突き棒でつついて、やっとのこと言うことをきく。」(『パイドロス』253d3-e5)

馬の違いを示すにあたって、まず、外見上の美醜や色の描写からはじまるものの、最終的には、これらの馬の性格の違いや、馭者の命令に対する態度の差が明確に示されている。善い馬はそれ自体として抑制的な性格をもち、羞恥を知る存在であり、命令を聞く際に暴力を必要としない。他方で、悪い馬は、放縦を含んでおり、馭者の命令に対する感度が著しく悪く、命令に従うにおいて強制力を必要とする。この優劣の差がある馬の描写は、もちろん、人間の魂の性質を指し示すために用いられているのであって、実用的意味で馬を目利きする際に利用されることは主眼にないだろう<sup>10)</sup>。しかし、プラトンが自身の議論のために、馬という生き物から特に引き出した要素は如実に表れている。すなわち、それは理性的命令に対する反応の仕方である。プラトンにとって馬は、善き馬である限り、本来命令に進んで服することのできる誇り高い生き物である。それに対し、悪い馬は耳の悪さのためか馭者への反応が鈍く、鞭を必要とする。

先に述べたように『パイドロス』前半部では、恋の評価をめぐる議論がなされており、この二頭立ての馬車の比喩において、美しい少年に恋した場合の、魂の反応の仕方が描写されている。馭者も美しい少年への恋心によって、欲望から強い影響を受けるが、その際、善き馬と劣った馬は、対照的な反応を示す。

「馭者のいうことをよくきくほうの馬は、このときもいつもと同じように、慎みの念におさえられて、自分が恋人にとびかかっていくのを制御する。けれども、もう一方の馬は、もはや馭者の突き俵も鞭もかえりみればこそ、飛びはねてはしゃにむにつき進み、仲間の馬と馭者とにありとあらゆる苦勞をかけながら、愛人のところに行って、愛欲の歓びの話をもちかけるようにと彼らに強要する。」(254a1-7)

善い馬は馭者に従おうとするものの、他方で悪い馬は、自らが馬車の進行の主導権をとろうと迫りはじめ。馭者と善い馬は、この悪い馬の強制に抵抗するが、ついには「譲歩して要求されたことをするのに同意し」、次第に恋の相手である少年に近づいていく(254a7-b3)。しかし、結局のところ、馭者は自分がかつて天上でみた「美」の实在の記憶から、恐れと畏敬により倒れこみ、手綱を強くひくことになる(254b-c)。そのため、二頭の馬は尻餅をついてしまうのだ(254c)。悪い馬は激しく怒り、馭者と善い馬をののしり、なおも少年に近づこうとする(254c-d)。それでもなお、馭者は前と同様の畏敬の感情から、暴れる悪い馬の口にある「くつばみ」を強くひっぱるために、馬の口は血で汚れ、脚と腰が地面へと押し付けられることになる(254d)。しかしながら、これを繰り返すことによって、悪い馬も次第にその性質を改める。すなわち、この悪い馬は「へりくだった心になって、馭者の思慮ぶかいはからいに従うようになり、美しい人を見ると、おそろしさのあまり、たえ入らんばかりになる。」(254e7-8)

善い馬と悪い馬は、馭者の命令に対する反応の仕方において違いがある。しかし、恋する者の魂において、悪い馬も、馭者の抑制が繰り返されることで、その反応が変化している。この事態は、人間の欲望と馬という生き物、両者に対するプラトンの理解の仕方を示唆していると思われる。人間の魂において欲望は、理性の度重なる命令により、自ら抑制的になるように導か

れる。この欲望を示す象徴である悪い馬は、たとえ、その性質が劣ったものであっても、馭者が繰り返し強く抑制することを前提としたうえで、より慎み深いものになる可能性を有しているのである。ベルはプラトン作品において馬も人間も本性的に「従順な」(“tame”)生き物であると主張しているが、確かに、継続的かつ苦痛を伴う調教を前提として、魂の中の馬は理性に従うことが『パイドロス』では示唆されていると思われる<sup>11)</sup>。

### 第三節 馬と虻 (アブ)

ここまで『パイドロス』篇から、人間の魂の構成要素の二つの部分が、馬によって示されていることを見てきた。他方で、『ソクラテスの弁明』では、アテナイという国家あるいはそれを構成する国民たちが馬に喩えられている。この馬は、生まれが良く大きいものではあるが、鈍重で眠りの中にある(『ソクラテスの弁明』30e)。そして、ソクラテスはこの馬を刺して目覚めさせる虻に自分を喩えている。先の二頭立ての馬車の比喩では、善い馬と悪い馬によって、人間の中の比較的優れた部分と劣った部分という二つの要素が示された。これとは若干異なる形で、馬が有する性質が述べられることになる。

ソクラテスはその生涯で、ほとんどアテナイからでることなく、街の広場などで多くの人と対話問答を交わしていたと言われている<sup>12)</sup>。しかし、それはたわいもないおしゃべりではなく、大変危険な議論であった。なぜなら、彼の対話問答は、彼自身がそれについての不知を表明した「立派で善いこと<sup>13)</sup>」(21d4)について、知識人として認められている人たちも、実は全く分かっていないことを暴露したからである。(『ソクラテスの弁明』, 21d-e)。ソクラテスは、人びとに彼ら自身の不知を自覚させようとした結果、大きな悪意を被ることになり、洗神罪と若者を墮落させたという罪状で告訴されることになる(22e-24c)。アテナイとソクラテスの関係を示す馬と虻の比喩は、ソクラテスを有害なものとして取り除こうとする意図に対して、国家に対する自らの必要性を示すために以下のように述べられる。

「実際、<sup>おか</sup>可笑しい言い方かもしれませんが、私は神によってポリスにくっ付けられた存在なのです。大きく

て血統はよいが、その大きさゆえにちょっとノロマで、アブのような存在に目を覚まさせてもらう必要がある馬、そんなこのポリスに、神は私をくっ付けられたのだと思うのです。その私とは、あなた方一人ひとりを目覚めさせ、説得し、非難しながら、一日中どこでもつきまとうのをやめない存在なのです。」(『ソクラテスの弁明』30e2-31a2)

先に言及した『パイドロス』において、馬は馭者によって抑制される存在として描かれていた。この『ソクラテスの弁明』の場合は、アテナイという馬は、虻の刺激によって、自らの不知に気づくように促されているという意味では、一見すると逆方向の作用を受けているようにも思われる。しかし、抑制と刺激のどちらの仕方にせよ、両作品の馬は、他者からの働きかけと改善を受ける存在として捉えられている。ベルは『ソクラテスの弁明』において、哲学的な配慮を受ける特別な対象の例として馬が用いられていることを指摘しており<sup>14)</sup>、また、プラトンが見い出した人間と馬の類似性を示している<sup>15)</sup>。その類似性とは、どちらも、自らの本性に固有の善を獲得するには、補充的な訓練が必要である、というものである<sup>16)</sup>。『パイドロス』と『ソクラテスの弁明』の描写を見た場合、前者の馬が魂の部分であるのに対し、後者の馬は、国家あるいはそこに属する人間全体を意味するように、指示関係の違いはある。だが、どちらにおいても、人間が精神的な訓育を受ける際に、馬が何らかの形で人間の在り方を示すものとして用いられていることは特徴的であり、ベルによる類似性の指摘は重要である。

また、一つ注意しておきたいのは、この箇所では馬に与えられている、「血統のよさ」(ギリシア語、γενναῖος/*gennaios*)、という性質には微妙な含意がある、ということだ。γενναῖοςという言葉の主な意味は、良い生まれをもつ、また、高貴である、といったものである(それ自体の性質の善さを示す場合もある)<sup>17)</sup>。これはソクラテスから祖国アテナイに対して、一頭の大きな馬が優れた由来を持っていながら、現実には不知の問題を抱えていることへの批判となっている。『パイドロス』の二頭の馬の描写では、善い馬の中で、その生まれと性質の善さは共存していたが、『ソクラテスの弁明』の文脈では、そのようにはなっていない。この作品では、本性的に持っている善さをその通り発現するべきであ

るといふ、批判あるいは励ましの対象として馬のイメージが用いられている。

ただし、ベルが指摘しているように、ここでソクラテスの批判は、この馬が眠っていて鈍重であることに向けられており、馬であることそのものではない<sup>18)</sup>。その意味で、プラトンの馬に対する評価は悪いものではなく、実際『パイドロス』でも、特に善い方の馬は、元来、馭者の命令に従う能力を有している。馬が体現する性質への肯定的評価は、プラトンの他の動物への扱いかたを一瞥すると更に目立ってくる。例えば、『パイドン』では、魂の輪廻転生が描かれるが、その際、人間の魂は生前の生き方に応じて、死後、それに対応した動物の身体に入り込む。暴飲暴食の生を過ごしたものは驢馬の種族に、不正や略奪を好んだ者の魂は、狼や鷹、鳶の種族に入り込む(『パイドン』82a)。悪徳を象徴する生き物たちと対比する場合、馬に与えられる特質は明らかに良いものとなっている。彼らは、馭者の命令に服し、天上を駆け、慎みを持って恋の相手に向かい合い、また、哲学的吟味によって、よりよき状態へと改良されるものとなる。

## 結び

本稿では、『パイドロス』と『ソクラテスの弁明』から、ベルの主張に学びつつ、プラトンの議論における馬の特徴を示した。馬は人間の魂の部分的な特徴を示しており、また、哲学的な吟味を受けるアテナイを比喩的に表現したものでもある。このことは、馬が抑制あるいは刺激を受けることで、その性質を善きものとする、という考え方と対応している。プラトンが描写する馬には、人間の生活と関わる家畜、あるいは、道具としての有用性が認められているだけではない。馬が示す特質は人間の在り方を表現するものにもなりうるのである。馬は優れた資質を持ち、そしてさらにそれを伸長させることができる。私たちが声援を送る競走馬は調教によりその競争能力を磨いていく。プラトンにとって、私たちの魂も、己の理性や哲学的吟味によって導かれ、改善される存在となっている。

## 脚注

- 1) 『ティマイオス』、『ソピステス』、『法律』といった、ソクラテスが主人公ではない作品もある。
- 2) *Plato's Animals: Gadflies, Horses, Swans, and Other*

*Philosophical Beasts*, edited by J. Bell and M. Naas, Indiana University Press, 2015. (文献表参照)

- 3) Bell, J. 2015, p. 128, n.1. 荻野によれば、プラトンの作品として伝承されているものは36あるが、25から27作品が真作であると言われている(荻野 2003年, p. 71)。
- 4) Bell, J. 2015, p. 116.
- 5) Bell, J. 2015, p. 116-117.
- 6) 『パイドロス』の訳文は、Oxford Classical Textのギリシア語テキストを確認しつつ、藤沢令夫訳を用いる。作品の参照箇所を示す数字とアルファベットの記号は、プラトン作品を参照する際に現在標準となっている、ステファヌス版のページ番号と、ページ内での段落を示すアルファベット記号に対応している。
- 7) 脇條靖弘 訳『プラトン パイドロス』(文献表参照)。
- 8) 藤沢令夫 訳『パイドロス』, 解説 p. 245-247。
- 9) ベルはプラトン作品における人間と馬の二面性について、次のような興味深い示唆を与えている(Bell, J. 2015, p. 120)。人間と馬は本性的には従順(“tame”)であるが、生まれたときにはその従順さをもたず野性的なものとなっている。両者は訓練によって、元の従順な本性へと近づいていくのだ。つまり、彼らは生まれてすぐの段階で、その本来の性質をもっておらず、むしろ、後の訓練によって本性を獲得することになる。
- 10) より実践(戦)的な馬の選び方に関しては、ソクラテスと同時代の軍人にして文人であるクセノポンが「馬術について」と言う作品を著しており、調教前の若駒については、まず足を詳細に調べることが重要だと述べている。そこでは、蹄の厚さや高さ、球節の下の骨の形、脛の太さの吟味の仕方について言及される(第一章、第一節—第五節)。また顎の硬さや、左右の顎の硬さの違いにも、クセノポンは注意を促している(第一章第九節、第三章第五節)。クセノポン「馬術について」、『クセノポン 小品集』, 松本仁助訳, 京都大学学術出版会, 2000年。
- 11) Bell, J. 2015, p. 120.
- 12) 荻野 2003年, p. 13-14.
- 13) 『ソクラテスの弁明』の訳文は、『パイドロス』と同じくOxford Classical Textによりギリシア語テキストを確認しつつ、納富信留訳を用いる(文献表参照)。
- 14) Bell, J. 2015, p. 116.
- 15) Bell, J. 2015, p. 120.
- 16) 参照: Bell, J. 2015, p. 116. また、ベルは『パイドロス』

での悪い馬の役割を比較的積極的にとる。すなわち、この馬が司る欲望は、調教によって完全に消し去られるのではなく、むしろ魂全体を動機づける役割を果たす(Bell 2015, p. 125)。ただし、本稿はこの解釈には同意しない。というのも、魂の最も本来的な知性機能は、馭者が持つ実在への記憶によって働くが、その際の悪い馬の役割はテキストからは明確ではないからだ。この問題について、本稿では主題から逸れるためにこれ以上は論じられないが、筆者の「プラトン『パイドロス』における狂気の意義」、『哲学論集』第五十号、上智大学哲学会、2021年で詳細に議論した。

- 17) Liddell, H.G., Scott, R. and Jones, H.S. 1996. *A Greek-English Lexicon*. Ninth edition with a revised supplement. Oxford: Oxford University Press.
- 18) Bell, J. 2015, p. 117.

## 文献

古代ギリシア語テキストならびに翻訳

『パイドロス』

- ・ Plato, *Platonis Opera*, tomus II, edited by J. Burnet. Oxford Classical Texts, Oxford: Oxford University Press, 1901.
- 『ソクラテスの弁明』および『パイドン』
- ・ Plato, *Platonis Opera*, tomus I, edited by E.A. Duke, W.F. Hicken, W.S.M. Nicoll, D.B. Robinson, and J.C.G. Strachan. Oxford Classical Texts, Oxford: Oxford University Press, 1995.
- ・ 藤沢令夫(訳)『パイドロス』, 岩波文庫, 1967年。
- ・ 藤沢令夫(訳)『国家』, 岩波文庫, 1979年。
- ・ 納富信留(訳)『ソクラテスの弁明』, 光文社古典新訳文庫, 光文社, 2012年。
- ・ 脇條靖弘(訳)『プラトン パイドロス』, 京都大学学術出版会, 2018年。

## 二次文献

- ・ Bell, J. 2015. Taming Horses and Desires: Plato's Politics of Care. In: *Plato's Animals: Gadflies, Horses, Swans, and Other Philosophical Beasts*, edited by J. Bell and M. Naas, Bloomington and Indianapolis: Indiana University Press.
- ・ 荻野弘之『哲学の饗宴 ソクラテス・プラトン・アリストテレス』NHK出版, 2003年。

## ドサンコから競走馬へ 新冠御料牧場の番号馬の末裔

田島芳郎



田島芳郎（たじま よしろう）  
1952年生まれ。地方競馬全国協会勤務を経てフリーランスの競馬史研究者。

### はじめに

かつて新冠御料牧場は膨大な数の雑種馬を生産し、民間に実用馬を供給していた。それらの母には馬名がなく番号で管理され、山馬あるいは番号馬と呼ばれた。

『畑江五郎遺稿集』（昭和60年、畑江アイ子）に記された岩淵真之氏（大正11年新冠御料牧場奉職）の回想によれば、山馬＝番号馬は周年放牧されており、零下20℃を下回る寒気の中、アゴにつららを下げ、前肢で雪を掻いて熊笹を求めていた。崖から落ち、ヒグマに襲われ、嵐で倒れた大木の下敷きになる馬もいた。そうして集団で生き延びた馬たちの末裔は昭和50年代の中央競馬にも存在していたという。

御料牧場の後を継いだ新冠種畜牧場が馬産から撤退した際、下飯坂隆氏が救出した繁殖台帳がジャパン・スタッドブック・インターナショナルに所蔵されている。同団体のご好意で閲覧する機会を得たところ、従来知られていなかった事実がいろいろ発見されたので、ここに報告させていただく。

### 馬産の推移

明治5年、開拓使は日高国新冠郡に牧場の地をとし、翌年日高各地に散在する野馬を駆り集めた。それらは馬格の矮小化が進んでいたため、明治8年から20年以上に亘って旧南部藩領から種牡馬を移入した。こうして生まれた「南土合」は日本人の体格に合った駄載馬として歓迎された。

明治10年、静内郡御園に事務所を設けて新冠牧馬場と命名し、新冠郡の地を旧牧場、前年静内郡に拡張していた地を新牧場と呼んだ。旧牧場では和種馬を自由放牧させ、新牧場では一定の囲いに南部産種牡馬を1頭ずつ入れた。同年、アメリカからダブリンとキーンリチャーズ（後にキングリチャードと訛伝）が輸入された。どちらも当時の品種呼称は乗用種で、後にトロッ

ターとされたが、実際はサラブレッドである。

明治13年、北海道における最功労馬と呼ばれたブラックホークが、キングスレーと共に輸入された。これらも同様の品種呼称をされたが、ブラックホークは父が、キングスレーは自身がサラブレッドであった。16年に注文したグランドエンペローと、牝馬のエリース、キツチオー、モリーシーはいずれもトロッターであった。

明治16年末、所管が宮内省に変わり、新冠御料牧場が誕生した。翌年上記の4頭が到着し、本省からオーストラリア産サラブレッドの驕驢と蘭が送られてきた。ただし蘭は血統不詳である。19年にはハンガリー産ノニウス牝馬の月山、20年にはイギリス産サラブレッドのゼバイカウントがやってきた。

明治21年春にサラブレッドと信じられたアイルランド産馬スプーネーとハワイ産乗用種（後にトロッターとされた）のスタオンプリンスが、秋には下記7頭の「サラブレッド」が入場した。牡はハンガリー産の富士ヶ根（母はシャギアアラブ半血）、下総御料牧場産の第二モンマース、第三ローストン、第四ブラドレー（母はアラブの吾妻）。牝はオーストラリア産で血統不詳の横浜、下総御料牧場産の第三ウォールドンスベリー、第六吾妻（父第二モンマース、母吾妻、後にプリンセスと改名）である。

明治23年にアルゼリーの芙蓉、26年にはハノーヴァーのズイトウベストが来た。明治26年末時点で新冠御料牧場には洋種馬が牡18頭、牝14頭、雑種馬が牡131頭、牝385頭、和種馬が牡289頭、牝703頭いた。旧牧場では和種牝馬を40頭規模で囲って雑種や南部産の種牡馬を1頭ずつ入れ、新牧場では雑種牝馬の群れに雑種の種牡馬を入れたり、牝馬だけの群れから発情した馬を曳き出して洋種の種牡馬を交配した。洋種牝馬は舎飼されたが、雑種牝馬にも舎飼されたものがい

たかもしれない。

明治30年代になると活兵器としての馬が強く求められるようになり、新冠御料牧場では和種馬の雑種化と雑種馬の増産が進められた。そのため雑種牝馬に雑種の種牡馬をあてがうことが多くなった。そこへ更に、イギリスの速歩馬ハクニー、御料馬車を曳くために導入されたクリーヴランドベイ、ヨーロッパを視察した軍人が持ち帰ったドイツのトラケーネン、ロシアのオルローフrostプチンなど、多様な馬が本省から送られてきた。そしてそれらが無秩序に交配された結果、明治の終わりにはわけのわからない一大雑種馬群が出来上がっていた。

大正時代になるとこれにハンガリーのギドラン、フランスのアングロノルマンが加わるが、フランコニー、ブラックスミスというサラブレッドも再び導入されたので、軽快さを取り戻す系統もあった。大正12年の競馬法成立で競馬界が活気づくと、そうした馬たちが払い下げられた民間牧場で競走馬を生産するようになったのである。

### 最初の番号馬

今日確認できる番号馬の起源は七重官園成立の直前、明治6年に五稜郭で出産した和種牝馬群である。その馬たちには七重でも同じ番号が振られた。それらが洋種種牡馬との間に産んだ一回雑種牝馬には一から順に番号が与えられ、次世代の二回雑種にもまた一から順に番号が与えられた。

おそらく札幌官園でも同様に、和種の何番という番号が与えられたことであろう。ただし札幌官園は場所が狭隘なため、馬は明治9年4月に手稲牧場へ移された。同年7月には現在の恵庭市にあった漁牧場へ、11年には新冠牧馬場へ移されている。

新冠御料牧場の繁殖台帳は明治30年代後半に整備されたが、中には先祖が書かれている馬がいた。最も古くまで淵源を辿れる牝祖は和種一〇号である。

これに交配されて一回雑種五号の父となった富士越は、ナポレオン三世から徳川幕府へ贈られたアルジェリア産の純血アラブで、明治5年に渡道し、8年に七重から札幌官園に送られた。古くからの口碑に、北海道へ来た最初の西洋馬は流星号あるいは流星栗毛と伝わるのがこの馬である。

二回雑種二号の父ダブリンは、明治12年の種付けを

終えて死亡したので、一回雑種五号は明治9年手稲牧場産、二回雑種二号は明治13年生まれと考えられる。三回雑種五号の生年は確定できないが、父が牧場の至宝ブラックホークであるから、この系統は舎飼されていたと考えてもおかしくない。旧牧場から出た野馬の子孫と札幌官園にルーツを持つ馬とでは、同じ番号馬でも扱いが違ったのではなかろうか。

台帳が整備されると、雑種繁殖牝馬全体に一連の番号が付された。一五八七号の父は雑種ながら重用された雲晴で、明治33年生の鹿毛、血統は父が明治30年に輸入されたトロッターのフアーランドキング、母は一回雑種一三二号（明治19年生、栃栗毛）、母の父キングスレー、二代母和種二七号。

雑種同士の交配で産まれた一五八七号に配されたのはクリーヴランドベイのポーランドプライドで、その間に二三六九号が産まれた。これにはアメリカ産サラブレッドのフランコニーが交配され、大正後期に改番された番号の六九号が誕生した。

サラブレッドのアイデアを父、民間に払い下げられた六九号を母とするギンザは、サラブレッドが二代連続で交配されたためか優秀な競走馬となり、昭和3年秋の福島県賞典を含む25戦7勝の成績を挙げた。

### 帝室御賞典を拝受

一回雑種五九号を祖とする系統は栄光に満ちている。第三ローストンを父とする二回雑種二一六号は第二スプーネーと交配され、民間に出た豊泉を産んだ。その頃に番号が振られている馬は新牧場で管理されていたと考えられる。この系統は番号馬ではあっても山馬とは言えない。

第二スプーネーは明治後期の新冠御料牧場を支えた大種牡馬で、有名なミラ系を後世に伝えた第二ミラ、第三ミラの父でもある。この馬の優秀性は母第三ウオールダンスベリーに負うところが大きい。その父ブラドレーは歴史的名馬レキシントンの2×2という極端な近親交配馬で、母ウオールダンスベリーの祖父もレキシントンなので、第三ウオールダンスベリーはレキシントン3×3×3になっているのである。

豊泉は豊平との間に名牝豊洋を産んだ。豊平は明治後期の競馬界を席卷した大種牡馬で、明治22年3月に真駒内の北海道庁種畜場で生まれた、トロッターとされているが、母が1888（明治18）年アメリカ産の第八

号と伝わるだけで、血統は不明である。明治21年7月に東京から七重に牝牝2頭が送られ、牝は種用とし、牝は真駒内に移っていて、これがジョンアールと第八号のことだと思われる。両馬はその年同時に輸入されたか、真駒内の他の基礎種牝馬・牝馬と共に明治19年10月に輸入され東京に置かれていたのであろう。豊平の父はジョンアールだったのかもしれない。この2頭には産駒の競走能力が高いという共通点がある。

豊洋は体高5尺1寸9分(157cm)というサラブレッドにも劣らない馬格を持ち、伊藤繁太郎氏所有のホーヨーウとしてデビューから6連勝した駿足馬である。繁殖入りして更に素晴らしい成績を挙げた。

豊洋の第二仔が第二豊洋で、ホーヨーウの名で走り、平地38戦11勝、障害36戦2勝と活躍した。父は日高種馬牧場が誇るイボア。競走歴で光るのは大正15年9月4日、函館の帝室御賞典である。飯田利一氏の所有馬として松山仙一(後の相羽仙一)が騎乗し、小雨の不良馬場を9ハロン2分04秒3/5で駆け、ニシキに2馬身差をつけた。

スタートを切るや各馬一団となって進み、一ハロンよりホーヨーウ擡(ぬき)んで、ニシキ、ホービ、セントバーモンド雁行して続き、半哩頃から再び一団となったがホーヨーウまたリードし、八分の一のカーブでニシキ力走ホーヨーウを抜いたが逸して外枠に外れ、ホーヨーウ巧みに内枠を掠めて一着。(『競馬ファン』)

豊洋の五番仔ホウカツはこの系統で最も競走能力に優れており、26戦13勝した。伊藤繁太郎氏が所有し、昭和3年6月15日に札幌で帝室御賞典を拝受している。晴の良馬場で清水権平を鞍上に1,800米を1分54秒で駆け、アストラストを3馬身引き離れた。

逸速ホウカツ鮮かにスタートして颯爽として先頭に立ちアストラスト、ミストニチー、キタニホン、メリット、トップとすれすれに続き最初から火の出る様な競走、怪物トップ三ハロンから流星の如くに突っ込んで場内に殺気漲ると見る間にキタはミス抜きアストを突けばアスト懸命に逃れてホーカツを脅かしたがホーカツ悠々と其黒鹿毛の色を誇りつゝ一着となる。(北海タイムス)

ホウカツは静内にある伊藤繁太郎氏の牧場で繁殖入

りし、次々と優良馬を産んだ。中でもホウカツピーターは出色で、平地でも函館四歳馬特別を勝ったが、障害入りして大成功を収めた。昭和17年4月26日、本田昌雄騎手が70キロを背負って65.5キロのコマオーを頭差下し、中山農林省賞典障害(現在の中山大障害)を制覇したのである。

同じ静内の伊藤幸太郎氏が飼養した第四豊洋(競走名ホーヨー)からは、この系統を戦後に繋ぐ豊驕が出た。この難しい漢字はジョウと読むのだが、日本競馬会はなぜかセンと読んだ。しかし、競走名はホウセンではなくホウセイである。その娘レヴューミンドから出たハイオーダーは17年間に15頭の産駒を世に送る名繁殖牝馬となった。

ハイオーダーの牝駒ウゲツは旧4歳の1年間しか走らなかったが、榎屋忍(後の梅内忍)騎手とのコンビでオープン級に上がった。その半姉ヒダノクインから産まれたのがヒダコガネである。ヒダコガネは昭和48年9月15日、沢峰次騎手を鞍上に迎えて中山のクイーンステークスに出走し、リンネルンドを3/4馬身抑え、2,000米2分3秒2で最低人気を覆した。

#### アラブ系に進出

和種二〇二号と第二モンマースの間に産まれた一回雑種四二五号は、フランスから輸入されたアングロアラブのキューバスに配され、三六九号を産んだ。三六九号は民間に払い下げられ、同じく民間に出された第五ブラックホーク(明治28年生、母月山、明治38年売却)との間に橋を産んだ。

橋は十勝種馬牧場にいたサラブレッド・第七ガロンの種を得て、昭和5年9月8日に函館で帝室御賞典を拝受するヨシツネを産んだ。ヨシツネは生産者不明だが新冠村で生まれ、種田實氏の所有馬として清水茂次が騎乗し、晴の良馬場を1,800米2分ジャストで走り、ツタニシキを2馬身下した。

観覧席前はラビトリ、キングセ、内ヨシツネ外ヒノモト、コマイサ、ツタニシキの順で通過した。ヨシツネとヒノモトがキングセカンドを目標にしてゐるやうに見受けられた。第一コーナーでキングセカンドが先頭に抜けて、ヒノモトが二位についた、第二コーナーでヨシツネが上って来る、第三コーナーで、一躍キングセカンドを抜いて先頭に立った。ヒノモトの調子が悪く後退する。いよいよ

よ最後の直線コースに入り、キングセカンドが一杯に煽られ肉薄したが、ヨシツネよく凌いで快勝した。ツタニシキが非常な勢ひでキングセカンドを落して二着した。(『馬の友』)

ヨシツネはアラブ系競走での2戦2勝を含め、計35戦8勝した。アラブ血量は12.5%しかないが、陸軍の要請によって始められたアラブ系競走は資源が揃わず、当初は二代前までにアラブまたはアングロアラブが入っていれば出走を認められたのである。

サラブレッド競走馬が充実してくると、雑種に起源を持つ馬たちの勝利は難しくなっていたが、新たに導入されたアラブ系競走が活路となった。前述した豊洋の系統以外の番号馬の子孫は、アラブやアングロアラブの種牡馬と交配されていく。

とはいえ、戦後になるとサラブレッド牝馬にアラブやアングロアラブの種牡馬を付けたり、廃止された国営の種馬牧場から流出したアラブ牝馬にサラブレッドが交配されたりして、アラブ系にも上質な競走馬が増えた。アラブ系競走も番号馬の子孫にとって安住の地ではなくなったのである。

そんな中、一回雑種一〇四二号(アラブ系種血統書に一〇二四とあるのは誤り)から出たポバイクインは18.5%のアラブ血量を持っていたが、各地の地方競馬でサラブレッドと対戦し、昭和31年に旧金沢競馬場の北国王冠賞(後の北国王冠)を木明勝正騎手とのコンビで制した。

アラブ系競走では、南関東アラブ三冠の第一関門だった千鳥賞を、和種一二〇号の八代孫ナギサホープが昭和37年に宮下哲朗の騎乗で勝ったのが光る。

また、一回雑種四〇三号の玄孫バグーダは国営競馬で平地5勝・障害5勝を挙げたばかりか、繁殖成績も素晴らしく、産駒のシンゲキは昭和38年に道営の北海記念(後の北海盃)を勝ち、40年には品種を問わない紀三井寺の葵特別を制した。その半妹トヨモンドは昭和43年に道営のSTV杯(後のゴールドトロフィー)を勝った。

しかし、昭和50年代以後はアラブ系競走の衰退が著しく、サラブレッド系競走には海外から優秀な牝馬が多数輸入され、ドサンコにルーツを持つ馬たちが走る舞台は失われていった。平成元年3月、バグーダの曾

孫タイヨシンゲキが佐賀で弥生賞に優勝したのを最後の輝きとして、番号馬の末裔は競馬界から姿を消した。

新冠御料牧場は帝室林野局札幌支局新冠出張所と名乗った時期があるが、本稿では便宜上新冠御料牧場で統一した。台帳ではスプーネーと第二スプーネーはサラブレッド、それらの産駒はサラブレッド雑種となっているが、本稿では事実に基づき、スプーネーは英国産洋種(アイルランド独立以前の出生)、第二スプーネーは内国産洋種、それらの産駒は雑種とした。馬名変更もあり、花車はフラワー、初錦はハンダーに統一した。フラワーはサラブレッド雑種となっていたが、後に洋種とされた。明治22年生、血統は父ゼバイカウ、母魯山、母父ブラックホーク、母母ロシア産牝馬である。

系統表に性が書かれていない馬は牝、産地が書かれていない馬は新冠御料牧場産である。地名は生産された北海道内の自治体または北海道以外の県、人名は生産者、父馬名に品種のないものはサラブレッドである。競馬法が成立してから公認競馬～国営競馬～中央競馬に出走した馬は、出走回数=1着・2着・3着・着外として成績を示した。何も文字を付していないものは平地競走、障は障害競走、抽は抽籤馬競走、アはアラブ系競走、速は速歩競走を指す。丸特は小倉競馬の出走馬不足を補うため特例で登録された馬のレースで、実質的には福岡県の地方競馬を中央の舞台に移したものである。

不出走とあるのは公認～国営～中央競馬に登録されながら走らなかった馬だが、戦前においてはほとんどの馬がレースキャリアを持っていたと思われる。戦前の地方競馬を完全に調べることが不可能なため、地方競馬と表示できないのである。高齢になってから公認競馬に登録し、不出走あるいは数戦のみという馬も多い。そういう馬は地方競馬で実績を挙げていたであろう。

戦後の地方競馬で走った速歩馬は調べることができず、国営～中央競馬に出走した馬だけを記載した。生産者は不明だが、それらの馬の母の売却先はハクラクとハッピーが吉田善哉、クインが札幌レースクラブ、シゲカツが静内の岡田鬱男、トシキングが新冠的場正雄である。

和・一〇

一回雑・五 鹿 父アラ・富士越  
 二回雑・二 栗 父ダブリン  
 三回雑・五 青 父トロ・ブラックホーク  
 雑・一五八七 黒鹿 明38 父トロ雑・雲晴  
 クリ雑・二三六九 鹿 明43 父クリ・ポーランドブライド  
 サラ雑・六九 鹿 大8 父フランコニー  
 サラ雑・ギンザ 鹿 牡 大13 新冠 父アイデア  
 25 = 7・2・2・14 福島県賞典(昭3秋福島)  
 サラ雑・ケンター 鹿 大15 新冠 父第二ホーンビーム  
 2 = 0・0・1・1  
 サラ雑・マドコ 鹿 牡 昭3 新冠 父第二ラシカッター  
 8 = 2・0・1・5  
 サラ雑・三四一六 鹿 大9 フランコニー  
 サラ雑・秋晴 父第七ガロン  
 サラ雑・ハルビーム 鹿 牡 昭6 新冠 父第二ホーンビーム  
 2 = 0・0・0・2

一回雑・四九

サラ雑・二四五〇 栗 明33 父ゼバйкаウント  
 雑・日静 父内洋・第二スプーネー  
 サラ雑・ツバキ 鹿 大14 静内 父第七ガロン  
 4 = 0・3・1・0 障12 = 0・0・1・11

一回雑・五三

雑・三〇六 鹿 明32 父英洋・スプーネー  
 トロ雑・三三四六 鹿 大8 トロ・バンク  
 アラ雑・モンテローザ 栗 牡 昭6 静内 父アラ・アビューワフルウワ  
 ア抽8 = 1・0・1・6 ア抽障3 = 0・0・0・3

一回雑・五九

二回雑・二一六 黒鹿 明29 父第三ローストン  
 雑・豊泉 明34 父内洋・第二スプーネー  
 トロ雑・豊洋 黒鹿 明44 父トロ・豊平  
 競走名ホーヨウ(大3~5出走)  
 サラ雑・ホウヨウ 鹿 牡 大7 日高 父ポートルランドベア  
 12 = 0・0・2・10(他にキングワで大11出走)  
 サラ雑・第二豊洋 鹿 大9 静内・伊藤繁太郎 父イボア  
 競走名ホウヨウ 38 = 11・11・2・14 帝室御賞典(大15秋函館)  
 障36 = 2・10・9・15  
 サラ雑・ホウメイ 黒鹿 牡 昭6 門別 父第十一チャペルブラムプトン  
 不出走  
 サラ雑・ホウハク 黒鹿 牡 昭7 門別 父第十一チャペルブラムプトン  
 2 = 1・0・0・1 障14 = 2・2・1・7  
 サラ雑・キンキホーショウ 鹿 昭8 門別 父ミンドアー  
 23 = 1・1・2・19 障5 = 0・0・0・5  
 アア雑・セカイ 栗 昭11 門別・古川嘉平 父アア・芳淳  
 ア抽5 = 1・1・1・2 ア抽障31 = 2・4・4・21  
 軽半・ウエストホープ 黒鹿 牡 昭13 門別 父ブラオンジャック  
 1 = 1・0・0・0 障8 = 2・2・1・3  
 サラ雑・ホウセイ 黒鹿 大11 静内 父ポートルランドベア  
 50 = 8・10・6・26 内外古特H(昭3春札幌)  
 障8 = 0・2・1・5  
 サラ系・ホクトモアー 鹿 牡 昭14 門別・古川嘉平  
 父ブラオンジャック 7 = 2・1・2・2 障10 = 4・3・0・3  
 サラ雑・第四豊洋 鹿 大12 静内 父イボア  
 競走名ホーユー 4 = 1・2・0・1  
 サラ雑・ホウエツ 鹿 牡 昭4 静内 父第十一チャペルブラムプトン  
 4 = 1・0・1・2 障37 = 5・13・9・10  
 サラ雑・キングアジャ 栗 牡 昭5 静内  
 父第十一チャペルブラムプトン  
 3 = 0・0・1・2 障4 = 0・0・0・4  
 サラ雑・ホウカ 鹿 牡 昭6 静内 父ミンドアー  
 2 = 1・0・0・1  
 サラ雑・ホウミン 栗 牡 昭7 静内 父ミンドアー  
 5 = 1・3・1・0  
 サラ雑・豊驪 栗 昭8 静内 父ミンドアー  
 競走名ホウセイ 3 = 1・1・0・1 障20 = 0・2・2・16  
 軽半・ボロシー 栗 昭14 静内・伊藤繁太郎  
 父第十一チャペルブラムプトン 17 = 1・6・4・6  
 軽半・レヴューミンド 栗 昭16 静内・伊藤繁太郎  
 父レヴューオーダー 能力検定 地方競馬 産駒は別項に記す。

軽半・ミンドフレ 黒鹿 昭17 静内・伊藤繁太郎  
 父ブラオンジャック 地方競馬  
 サ系・ミンドステーツ 鹿 昭33 茨城・東京大学農学部附属牧場  
 父イブキヤマ  
 サ系・ミンドゲート 鹿 昭39 茨城・東京大学農学部附属牧場  
 父ラシヨウモン 地方競馬  
 ア系・ミスホイチ 鹿 昭43 鹿児島・小原利雄  
 父アア・フルヒカル 地方競馬  
 ア系・トミシマカラ 栃栗 昭48 鹿児島・小原利雄  
 父アア・ハヤミナミ 地方競馬  
 ア系・トミシマオー 鹿 牡 昭51 鹿児島・小原利雄  
 父アア・イチライジン 地方競馬  
 サ系・トシヒカリ 黒鹿 昭34 茨城・東京大学農学部附属牧場  
 父イブキヤマ 地方競馬  
 ア系・マイステリン 鹿 昭35 茨城・東京大学農学部附属牧場  
 父アア・シラフジ 地方競馬  
 ア系・コロナファースト 黒鹿 牡 静内・松本好一  
 父アア・ヤマジヨー 地方競馬  
 サ系・ダイサンハツユキ 黒鹿 牡 昭37  
 茨城・東京大学農学部附属牧場 父ケゴン 地方競馬  
 軽半・ヤクモ 栗 牡 昭20 北海道・中村喜久二 父クモハタ  
 3 = 0・0・2・1  
 サラ雑・ホウビン 鹿 昭9 静内 父ミンドアー  
 8 = 0・1・2・5 障8 = 2・0・2・4  
 サ系・コーア 栗 牡 昭11 静内・飯田外次郎 父ミンドアー  
 10 = 1・4・3・11  
 サ系・セントレチヤー 栗 牡 昭12 静内 父ミンドアー  
 18 = 1・4・2・11 障7 = 2・4・0・1  
 サ系・ホクヨクイン 栗 昭13 静内・伊藤繁太郎 父ミンドアー  
 3 = 1・2・0・0 障7 = 0・2・2・3  
 サラ雑・ホウカツ 黒鹿 大13 門別・古川喜三郎 父トリニチースクエア  
 26 = 13・3・3・7 帝室御賞典(昭3春札幌)  
 特H(昭3春札幌、昭3秋札幌、昭3大礼京都、昭4春中山)  
 サラ雑・ホウカツイージ 栗 牡 昭5 静内  
 父第十一チャペルブラムプトン  
 24 = 1・3・4・16 障14 = 2・2・2・8  
 サラ雑・ホウカツノー 鹿 昭6 静内 父ミンドアー  
 競走名ホウラン 6 = 2・0・1・3 障25 = 5・10・2・8  
 サ系・トクホウラン 鹿 牡 昭12 静内 父ブラオンジャック  
 34 = 7・9・5・13 障7 = 0・0・0・7  
 新呼優勝(昭15秋東京) 呼優勝(昭16春中山)  
 サ系・ホウランモア 黒鹿 昭13 静内・伊藤繁太郎  
 父ブラオンジャック 17 = 3・6・1・7 障5 = 2・2・0・1  
 サラ雑・ホウカツミンドアー 鹿 昭7 静内 父ミンドアー  
 10 = 1・3・2・4  
 障18 = 8・5・1・4 障特H(昭12春京都)  
 サラ雑・ホウカツビート 黒鹿 昭8 静内  
 父第十一チャペルブラムプトン 4 = 1・0・0・3  
 サ系・モリモア 黒鹿 昭13 静内・伊藤繁太郎 父ブラオンジャック  
 4 = 0・0・0・4 障12 = 1・7・1・3  
 サラ雑・ホウカツキング 鹿 牡 昭9 静内 父ミンドアー  
 26 = 13・4・3・8 新呼優勝(昭12春京都、昭13秋札幌)  
 特H(昭14春京都、昭14春札幌)  
 サラ雑・ハチフク 鹿 牡 昭11 静内・伊藤繁太郎 父ミンドアー  
 19 = 5・4・4・6 障4 = 0・0・0・4  
 サラ雑・ホウカツピータ 鹿 牡 静内 父ブラオンジャック  
 21 = 3・3・4・11 函館四歳馬特別(昭15春函館)  
 障29 = 6・10・3・10 中山農賞障害(昭17春中山)  
 サラ雑・ホウギク 栗 牡 大14 日高 父第七ガロン  
 15 = 2・3・2・8  
 サラ雑・トヨイズミ 鹿 大10 静内 父ポートルランドベア  
 5 = 0・0・2・3 抽8 = 0・2・1・5 障6 = 0・2・0・4

軽半・レヴューミンド

サ系・リキフジ 栗 牡 昭28 静内・伊藤繁太郎 父シマタカ  
 2 = 0・0・0・2 抽3 = 2・0・0・1  
 サ系・ハイオーダー 栗 昭29 静内・伊藤繁太郎 父シマタカ  
 地方競馬  
 サ系・グラッドメリー 栗 昭33 静内・伊藤繁太郎 父ポストニアン  
 25 = 2・1・2・20  
 サ系・ヒロイシ 栗 牡 昭40 静内・今岩男 父ヘリオス  
 11 = 2・2・1・6 地方名グラッドヘリオス 地方競馬

筆者作成の系統図のうち冒頭部

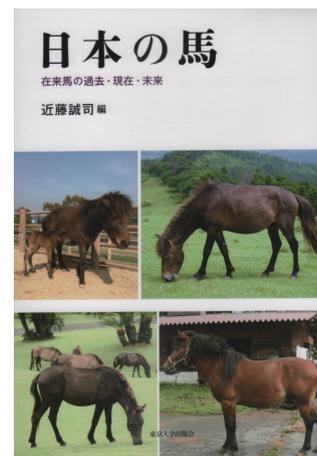
## 書籍紹介

### 『日本の馬』

編者：近藤誠司

発行所：一般財団法人 東京大学出版会

定価：4,950 円（税込） A5 判 208 頁



本書は、日本在来馬に関する他に類をみない優れた成書といえる。古くから日本各地で馬が繁殖され、戦闘や農耕、交通、運輸などで用いられてきた。しかし明治期以降、列強との争いの中で兵器としての軍馬を重要視し、既存の在来馬は洋種との配合で改良を重ねられてきた。しかし第二次世界大戦終了後、馬の活用はどんどん廃れていき、辺境で在来馬の遺伝子を多く残した一群の馬集団が残り、現在の8品種の日本在来馬となった。名馬の源とされ、古くから多くの資料に類出する南部馬もこの歴史の中で消滅している。

さてこうした日本在来馬に関して手軽にかつ全体を知るための本がなかったのも不思議ともいえるが、マイナーな存在をテーマにいま本書として出版した発行所にも敬意を表したい。

本書では序章として編者近藤誠司氏の「在来馬とはなにか」が巻頭に置かれている。この章では古くから日本で飼われてきた馬から、現在の日本在来馬にいたるまでの歴史が、主要な資料や文献を渉猟し、一連の流れとして大変わかりやすく解説されている。

第1章の戸崎晃明氏による「在来馬の遺伝的背景」は、現在の遺伝学の最新技術を駆使して、日本在来馬8品種の相互関係や世界の馬種と在来馬の遺伝的関係が明確に論じられている。日本の馬たちがどこから到来したかについては論争が重ねられてきたが、筆者らの遺伝子を用いた解析により、日本の馬はモンゴルで飼養されている在来馬集団を祖先とし、日本に持ち込まれたあと各地に広まり、その地域で繁殖、飼養が進んで分集団化されたことがいくつかのデータから明示されている。

さて第2章から第9章までは日本在来馬8品種それぞれの馬たちの保存活用を努力されてきた人たちを筆者として、その在来馬の“過去”、“現在”、“未来”が概述されている。“過去”の項はそれぞれの品種の歴史を知るための資料として貴重であり、飼養地での馬利用や環境にあわせて各特性を持つようになったことがうかがえる。一方、“現在”、“未来”では品種の保存、利用の方策を巡り種々の工夫や努力がなされている。このうち御崎馬は他の品種と飼養環境は異なるが、馬たちの保存維持の努力は注目される。御崎馬は550 haの土地に雌雄計110頭ほどの馬が生息している。ここではいくつかのハレムがつくられ自然繁殖が行われている。御崎馬はいわば馬の再野生下での集団であり、野生特有の行動や習性が身近に観察できる。また1年に一度の駒追いのエコツアーも人気を集め始めている。こうしたガイド付きの御崎馬の観察会の進展が、御崎馬の保存利用に期待を集めているようである。

日本在来馬はタフであり、粗食をものともしないとされてきた。経験的に言われてきた日本在来馬のこれらの特性について、第10章、第11章では、気鋭の研究者2名が自らのデータを用いて検証している。その成果については是非本書でご確認いただきたい。

日本在来馬は全体の半数以上を占める北海道和種は減少しているが、他の7品種はむしろ増加傾向にある。馬たちが地域振興のツールになりつつあるのかもしれないが、その存在を保護、保存、発展させるためには今後とも関係者の努力が必要とされよう。

(楠瀬 良)

# Journal of Equine Science

## Vol. 32, No. 4, December 2021

### 和文要約

#### 総説

馬の頭部と頸部の超音波ガイド下穿刺—総括およびエキスパートの見解—Jessica JOHNSON<sup>1</sup>, Tatiana VINARDELL<sup>1,2</sup>, Florent DAVID<sup>1,2</sup> (Equine Veterinary Medical Center, <sup>2</sup>College of Health & Life Science, Hamad Bin Khalifa University)…………… 103

超音波ガイド下での穿刺は、馬の様々な状況において行うことができ、それは診断と治療の両方で用いられる。超音波ガイドの利点には、盲目的アプローチに比べてより正確に注射液を注入できることがある。さらには、神経や血管といった重要な器官の認識が改善されることでそれらを避けることができ、そのことで手技に関連した併発症を減らすことができる。超音波画像による解剖の正確な知識さえあれば、超音波ガイド下での様々な手技は経験が乏しい獣医師にも容易に学ぶことが示されている。多くの症例において、高いレベルの精度で、広く普及している器材で、無菌操作の原則を完全に達成して、現場で行うことができる。馬の中軸骨格における超音波ガイド下穿刺の多くの手技がこの数年記述され、馬の獣医師が特有の解剖学上の領域のより正確な治療を行えるようになった。この総括の目的は、後眼球域、上顎および下歯槽神経、環椎後頭骨および環軸接合部、さらには頸椎関節突起関節、第一頸神経、第二、第三頸椎神経叢、そして第六、第七、第八頸神経根を含めて、馬の頭部と頸椎における診断と治療のための超音波ガイド下穿刺手技について検討することである。

#### 原著

日本の重種馬における多形核好中球 (PMNs) 数とプロスタグランジン F<sub>2α</sub> 投与効果について—新倉匡賢<sup>1,3</sup>, Munkhtuul TSOGTGEREL<sup>2,3</sup>, 新倉千鶴<sup>1</sup>, 和田春菜<sup>1</sup>, 神澤聖也<sup>1</sup>, 藤原 崇<sup>1</sup>, 南保泰雄<sup>2,3</sup> (十勝農業共済組合北部事業所, <sup>2</sup>岐阜大学大学院連合獣医学研究科, <sup>3</sup>帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター)…………… 117

交配誘導性子宮内膜炎は、馬における不受胎の主要因の一つである。子宮収縮能の低下が子宮クリアランス能低下につながる。日本の重種馬は馬体重が約 1,000 kg と世界最大級の品種である。軽種馬と比較して、大きな子宮を有し胎盤停滞を起こし易く大きな子馬を娩出する。また、近年の農業の機械化により、重種馬の運動機会が減少している。これらのことが、重種馬の子宮クリアランス能低下や受胎率低下の一因と考えられている。本国には世界で唯一、重種馬のレースであるばんえい競馬がある。この日本独自の文化、レースを守るためには重種馬繁殖率の向上が必須となる。子宮クリアランス能を向上させるために、一般的にはオキシトシンやプロスタグランジン F<sub>2α</sub> が使用されている。しかし、重種馬においては交配誘導性子宮内膜炎に対するこれら薬剤の使用に関する報告は未だ無い。本研究の目的は、日本の重種馬における交配誘導性子宮内膜炎に対するプロスタグランジン F<sub>2α</sub> (ジノプロスト) とオキシトシンの効果を調査することである。多形核好中球 (PMNs) 数を比較するため、54 発情 (Pre : 交配前, Day 0 : 排卵確認時, Day 2 : 排卵後 2 日) から総計 162 サンプルについてダブルガードサイトブラシを用いて採取した。ジノプロスト (PG, 5 mg 筋肉内注射) は、排卵確認時の Day 0 に 1 回のみ投与した。一方、オキシトシン (OT, 20 単位 筋肉内注射) は、Day 0, 排卵 12 時間後, 排卵 24 時間後 . の計 3 回投与した。Day 0 から Day 14 の間で血中プロジェステロン濃度は、無処置群 (CON), プロスタグランジン F<sub>2α</sub> 投与群 (PG), オキシトシン投与群 (OT) の 3 群

間で有意差はなかった。PMNs は、交配前 (Pre) から Day 0 にかけて各群ともに有意に増加した (CON :  $P < 0.0014$ , PG :  $P < 0.0046$ , OT :  $P < 0.0073$ )。PG 群のみ、Day 0 から Day 2 にかけて PMNs が有意に減少した ( $P < 0.0073$ )。交配前, Day 0, Day 2, の各採材日中の 3 群間で PMNs に有意差は見られなかった。受胎率に関しては、CON : 66.7% (12/18), PG : 77.8% (14/18), OT : 55.6% (10/18) であり、有意差は見られなかったが PG 群の受胎率が他の 2 群よりも高い結果となった。本研究の結果から、ジノプロスト単回投与は血中ホルモン濃度や受胎率に影響を及ぼさず、重種馬における交配誘導性子宮内膜炎の予防に効果的であることが示唆された。

マイクロ流路定量 PCR 法に基づいたウマの遺伝子ドーピング検査のための標準物質の設計および保存安定性——戸崎晃明<sup>1</sup>, 大沼 葵<sup>1</sup>, 菊地美緒<sup>1</sup>, 石毛太一郎<sup>1</sup>, 梶祐永<sup>1</sup>, 廣田桂一<sup>1</sup>, 草野寛一<sup>2</sup>, 永田俊一<sup>1</sup> (1 競走馬理化学研究所遺伝子分析部, 2 日本中央競馬会馬事部)

..... 125

競馬における遺伝子ドーピングの一つは、トランスジーンと呼ばれる外因性遺伝物質の投与である。トランスジーンを検出するために、高い感度と特異性から PCR に基づく検出法が開発されている。ただし、複数のトランスジーンの同時分析を可能にするには、新たに標準物質 (RM) とポジティブテンプレートコントロール (PTC) の設計が必要である。本研究では、マイクロ流路定量 PCR (MFQPCR) 法によって複数の標的を同時に検出するために好ましい RM の開発を行った。12 個のウマの遺伝子が標的として選択された。定量 PCR 用のプライマーとプローブを含む配列領域を設計し、RM をトランスジーン配列と区別できるように 10 bp の配列を挿入した。次に、個別に設計した塩基配列を連結させ、単一のプラスミドベクターにクローニングした。フラグメントサイズ分析は、トランスジーン配列と PTC の PCR 産物を区別したことから、遺伝子ドーピング検査における RM のコンタミネーションの特定を可能にした。ウマのゲノム DNA で 10,000, 1,000, 100, および 10 コピーに希釈された PTC は、4°C で 1 年間安定して保存できることが確認された。デジタル PCR は絶対定量を可能にすることから、設計された物質が RM としても利用できることと期待された。これらの研究結果は、RM の設計と保管条件が MFQPCR を使った遺伝子ドーピング検査に適していることを示した。

馬の浅指屈腱と繫靭帯の断面積とエコー源性に及ぼす中手指節関節の角度の影響——Jackson SCHADE<sup>1</sup>, Anderson FERNANDO DE SOUZA<sup>2</sup>, Lorenzo COSTA VINCENSI<sup>1</sup> and Joandes HENRIQUE FONTEQUE<sup>1</sup> (1 Department of Veterinary Medicine, Agroveterinary Sciences Center, Santa Catarina State University, 2 Department of Surgery, School of Veterinary Medicine and Animal Science, University of São Paulo)..... 135

本研究の目的は、歩行馬の浅指屈腱 (SDFT) と繫靭帯 (SL) の横断面積 (TA) と平均エコー源性 (ME) に対する中手指節関節 (MCP) 角度の影響を評価することであった。Mangalarga Marchador 種 (MM ; n=25) と Campeiro (n=25) 種、計 50 頭の健康な成馬から超音波画像を得た。MCP 関節の静的・動的角度を、それぞれ写真とビデオ画像から測定した。動的角度と ME との間に弱い負の相関を認め、加えて MM 馬では MCP 関節の動的角度が小さい群においてのみ SL の ME 値が高かった。さらに、静的角度と SL 外側支の TA との間、および静的角度と SDFT の ME との間にも弱い負の相関を認めた。しかし、それら弱い相関だけでなく MM 馬に認めた差をもって、MCP 関節の角度が小さい (すなわち伸展が大きい) ことが腱構造の TA や ME 値の増大と関係するという仮説を支持するには不十分と考えられた。結果は、MCP 関節の静的・動的角度が歩行馬の SDFT や SL の TA や ME 値に影響を与えないことも示唆している。

## 短 報

関節鏡下にて第四手根骨板状骨折の内固定手術を実施した 8 か月齢のサラブレッドの 1 例——宮越大輔<sup>1,3</sup>, 渡辺晶子<sup>2</sup>, 池田寛樹<sup>1</sup>, 水口悠也<sup>1</sup> (1 日高軽種馬農業協同組合, 2 門別ホースクリニック, 3 現所属: みなみ北海道農業共済組合家畜高度医療センター)..... 143

8 か月齢のサラブレッド種牡馬が放牧地にて右前肢跛行を呈した。右前肢、腕節の X-ray 検査にて第四手根骨板状骨折および第三中手骨近位の骨折が明らかとなった。関節鏡下にて 3.5 mm 皮質骨螺子を用いて第四手根骨板状骨折の内固定手術を実施、また、第三中手骨近位の骨折も 3.5 mm 皮質骨螺子にて整復した。本馬は 32 か月齢で競走に出走し、その後、3 年間で計 65 回出走した。この間、右前肢腕節に起因する跛行は認められなかった。

高濃度の血清中抗ミュラー管ホルモン (AMH) を呈し非腫瘍性異常卵巣を有する重種繁殖牝馬の一例——後藤聡<sup>1</sup>, 田上正明<sup>1,2</sup>, 加藤史樹<sup>2</sup>, 鈴木 吏<sup>2</sup>, 山家崇史<sup>2</sup>, 村瀬晴崇<sup>3</sup>, 佐藤文夫<sup>4,5</sup>, Munkhtuul TSOGTGEREL<sup>1,5</sup>, 新倉匡賢<sup>6</sup>, 森山友恵<sup>1</sup>, 千葉暁子<sup>1</sup>, 渡邊謙一<sup>1</sup>, 都築直<sup>1</sup>, 南保泰雄<sup>1,5,6</sup> (<sup>1</sup>帯広畜産大学獣医学研究部門, <sup>2</sup>社台ホースクリニック, <sup>3</sup>日本中央競馬会生産育成研究室, <sup>4</sup>日本中央競馬会臨床医学研究室, <sup>5</sup>岐阜大学大学院連合獣医学研究科, <sup>6</sup>帯広畜産大学大学院畜産学研究科) …… 147

本報告の目的は重種繁殖雌馬における異常卵巣疾患に対して行った臨床検査と腹腔鏡を併用した治療の概要を示し、臨床現場における異常卵巣診断の一助を提示することである。帯広畜産大学動物医療センターにおいて、高 AMH 濃度を示し、直径 25 cm 以上に大きく腫大した単胞性卵巣を有する重種繁殖雌馬に対して腹腔鏡補助下で卵巣摘出手術を行った。病理組織診断の結果、卵巣に腫瘍細胞の増殖は認められず著しく腫大した卵巣嚢腫と診断された。摘出後の嚢胞内層には、AMH の染色性が認められなかったが、血中 AMH 濃度の推移から、腫大した卵巣が AMH 分泌源であることが示唆された。摘出手術後 5 か月で、本馬は受胎が確認された。以上の結果から、馬の異常卵巣診断において、その診断には継時的な卵巣形態の観察およびバイオマーカーのモニタリングを実施し、総合的な判断のもと治療方針の決定と予後判断を行うことが重要であると考えられた。さらに立位での腹腔鏡補助下卵巣摘出手術は重種繁殖牝馬の巨大卵巣摘出にも有用であることが示唆された。

農作業に従事するラバの血清中コルチゾール値——Lady C. CALIXTO<sup>1</sup>, José R. MARTINEZ<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Research Line in Equine Medicine and Surgery (LIMCE), Centauro Research Group, School of Veterinary Medicine, Faculty of Agrarian Sciences, University of Antioquia) …… 153

コルチゾールは副腎から分泌されるホルモンで、生理学的および病理学的な要因によって刺激され、馬では広く研究されているが、ラバでは研究されていない。本研究の目的は、農業活動に使役されているラバにおける血清コルチゾールの基準値を得ることと、その値の年齢および性別による違いを明らかにすることである。コルチゾールに特異的な市販のサンドイッチ ELISA 法を用いて、血液サンプル中の濃度を測定した。その結果、コルチゾール濃度は  $96.3 \pm 40.6$  ng/ml で、年齢や性別による違いはなかった。

# 臨床委員会 DVD 販売のお知らせ

日本ウマ科学会臨床委員会では、過去に開催された臨床委員会主催の招待講演ならびに実習のDVDを販売しています。

## <お申し込み方法>

以下の申込用紙をご利用いただくか、メールで事務局までお申し込みください。

## <価格および代金のお支払い方法>

価格は1セット**3,000円**（税込）です。

お申し込み後、折り返し合計代金をご連絡いたしますので、ご確認の上、下記口座まで代金をお振込みください。納金確認後、宅配便にてお送りいたします。なお、お手数ですが送料は受取人様払いでお願いいたします。

郵便振替口座 記号番号：00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行（9900）〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会（ニホンウマカカクカイ）

----- キリトリセン -----

## 申込用紙

|            |                     |                    |      |         |
|------------|---------------------|--------------------|------|---------|
| ご希望のDVDと枚数 | (1) 2009年（第22回学術集会） | Dr. Brooks         | 眼科   | ( ) セット |
|            | (2) 2010年（第23回学術集会） | Dr. Richardson     | 整形外科 | ( ) セット |
|            | (3) 2011年（第24回学術集会） | Dr. LeBlanc        | 繁殖   | ( ) セット |
|            | (4) 2012年（第25回学術集会） | Dr. Dyson          | 跛行診断 | ( ) セット |
|            | (5) 2013年（第26回学術集会） | Dr. White          | 急性腹症 | ( ) セット |
|            | (6) 2014年（第27回学術集会） | Dr. Scott          | 装蹄   | ( ) セット |
|            | (7) 2015年           | Dr. Mama & Steffey | 麻酔   | ( ) セット |
|            | (8) 2016年（第29回学術集会） | Dr. Ducharme       | 呼吸器  | ( ) セット |
|            | (9) 2017年（第30回学術集会） | Dr. Hyde           | 歯科   | ( ) セット |
| お名前        |                     |                    |      |         |
| ご送付先住所     |                     |                    |      |         |
| ご所属        |                     |                    |      |         |
| 電話番号       |                     |                    |      |         |
| メールアドレス    |                     |                    |      |         |

連絡先：日本ウマ科学会事務局

FAX：0285-44-5676

e-mail：e-office@equinst.go.jp

住所：〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4 JRA競走馬総合研究所

## 協賛団体名

| 団体名      | 〒        | 住所                           |
|----------|----------|------------------------------|
| 日本中央競馬会  | 106-8401 | 東京都港区六本木 6-11-1 六本木ヒルズゲートタワー |
| 地方競馬全国協会 | 106-8639 | 東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル         |

## 賛助会員名簿

(五十音順)

| 会員名                           | 〒        | 住所                               |
|-------------------------------|----------|----------------------------------|
| (株)アイベック                      | 170-0002 | 東京都豊島区巢鴨 1-24-12 アーバンポイント巢鴨 4F   |
| 公益財団法人 軽種馬育成調教センター            | 057-0171 | 北海道浦河郡浦河町西舎 528                  |
| 公益財団法人 競走馬理化学研究所              | 320-0851 | 栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2                |
| JRA システムサービス(株)               | 135-0034 | 東京都江東区永代 1-14-5 永代ダイヤビル 7F       |
| JRA ファシリティーズ(株)               | 104-0032 | 東京都中央区八丁堀 3-19-9 ジオ八丁堀           |
| 公益財団法人 ジャパン・スタッドブック・インターナショナル | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 6F     |
| 公益財団法人 全国競馬・畜産振興会             | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F     |
| 公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会            | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 5F     |
| ゾエティス・ジャパン(株)                 | 151-0053 | 東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル 14 階 |
| 中央競馬馬主相互会                     | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-7-26 東洋海事ビル 3F         |
| DS ファーマアニマルヘルス(株)             | 541-0053 | 大阪府大阪市中央区本町二丁目 5-7 大阪丸紅ビル 10 階   |
| 一般社団法人 日本競走馬協会                | 106-0041 | 東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル             |
| 公益社団法人 日本軽種馬協会                | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F     |
| 一般財団法人 日本生物科学研究所              | 198-0024 | 東京都青梅市新町 9-2221-1                |
| 公益社団法人 日本装削蹄協会                | 105-0004 | 東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 7F     |
| 一般財団法人 日本中央競馬会弘済会             | 105-0003 | 東京都港区西新橋 1-1-1                   |
| 公益社団法人 日本馬事協会                 | 104-0033 | 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 7F        |
| 公益社団法人 日本馬術連盟                 | 104-0033 | 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 6F        |
| 一般財団法人 馬事畜産会館                 | 104-0033 | 東京都中央区新川 2-6-16                  |
| 文永堂出版(株)                      | 113-0033 | 東京都文京区本郷 2-27-18                 |

## 編集後記

今年8月13日、東京の新型コロナウイルス感染者が5,908人となり医療が崩壊しているともいわれました。しかしその後、感染者は急速に減り、現時点では感染者数は100分の1以下になっています。ワクチン接種が進み、感染を押さえつける免疫力の強い効果が大きな要因となっていますが、これほどの感染者の減少は世界的に見ても少なく、正確な要因はわかっていないようです。ところが一方で現行のワクチンが利きにくいオミクロン株が出現しました。ウイルスとワクチン、治療薬のいたちごっこが始まるのでしょうか。コロナはなかなか終わらない。

本号は【特別記事】として、今夏に開催されたオリンピック記事二編を掲載しました。まず一編目は、日本馬術連盟の広報担当北野あづささんによる「東京2020オリンピック馬術競技レポート」です。関係者ならではの競技の詳細なレポートが読み取れます。もう一編は馬術競技の見巧者の池田収さんから寄稿いただいた「東京2020オリンピック馬術競技—予想メモを脇にグリーンチャンネル観戦—」です。競技の興奮と同時に、池田さんの競技観戦スタイルも読み取れます。

【馬事往来】は三浦太一さんによる「プラトン哲学における馬」を掲載しました。プラトンにおいて『馬が示す特質は人間の在り方を表現するものにもなりうる』のだそうです。

【馬事往来】もう一編は田島芳郎さんによる「ドサンコから競走馬へ 新冠御料牧場の番号馬の末裔」です。明治期に日高で山馬-番号馬とよばれた雑種馬の末裔が、昭和50年代まで競走馬として活躍していた顛末が記載されています。

書籍紹介では『日本の馬』を取り上げました。日本在来馬の過去、現在、未来を記載した良書といえます。

(編集委員長 楠瀬 良)

---

### 入会申し込み方法

下記宛にお申し込み下さい。年会費は5,000円(国内)です。

日本ウマ科学会事務局

〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

E-mail : e-office@equinst.go.jp

---

## Hippophile, No. 87, 2021

2021年12月発行

<http://jses.equinst.go.jp/>

編集委員長：楠瀬 良

発行者：青木 修

〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

郵便振替口座番号 00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(ゼロイチキョウ)店

当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会(ニホンウマカガクカイ)

印刷者：株式会社 アイベック

〒170-0002 豊島区巣鴨1-24-12

電話 03-5978-4067